「親学習プログラム」の活用促進に向けて

～思春期の家庭教育支援事業に関する調査研究～

平成 31（2019）年３月

栃木県総合教育センター

はじめに

家族構成の多様化、少子化、地域における人間関係の希薄化、社会経済の変化等を背景として、現代社会は家庭教育が困難な時代であると言われており、子育てに関して不安や悩みを抱える保護者も増えています。家庭の状況に目を向けると、三世代世帯の割合が低下し、一人親世帯の割合が上昇傾向にあります。こうした中、子どもの社会性や自立心などの育ちをめぐる課題に社会全体で向き合い、親子の育ちを支えていくことが重要となっています。また、世帯構造の変化や地域社会の変化に伴い、子育てについて悩みや不安を多くの家庭が抱えながらも、身近に相談できる相手がいないといった家庭教育を行う上での課題が指摘されています。

そこで国は、全ての親が安心して家庭教育を行うことができるよう、家庭教育の推進方策に関する検討委員会を設け、具体的な方策を立て、第３期教育振興基本計画に地域全体で家庭教育を支える目標と施策群を示し、家庭教育に対する支援を一層充実させる取組を進めています。

栃木県教育委員会においても、「栃木県教育振興基本計画２０２０ー教育ビジョンとちぎー」において「地域全体で支える家庭教育への支援」を基本施策の一つとし、家庭教育の学習機会の充実と家庭教育支援の基盤づくりを推進しており、親学習プログラム等の活用を促すとともに、時代の変化に対応したプログラムの開発・提供に努めることなどを主な取組としています。

昨年度、当センター生涯学習部が行った「栃木県における家庭教育支援の状況調査」の調査研究結果から、思春期の子を持つ保護者向けの学習機会の提供が少ないことが明らかになったことを受けて、今年度は、乳幼児期から自立するまでの切れ目ない家庭教育支援の充実を図るため、特に思春期の子を持つ保護者に焦点をあて、「親学習プログラム」の活用促進に向けた研究を進めることとしました。具体的には、長年家庭教育について研究されてきた牧野カツコ先生をはじめ、「親学習プログラム」の実践経験が豊かな団体等の代表をされている方や、県内で家庭教育支援に関わっている県職員などを構成メンバーとする研究協力委員の支援を得ながら、県立の高等学校や特別支援学校の「親学習プログラム」の活用状況調査や、研究協力校での「新たな親学習プログラム」の実践といった取組などを行いました。

本報告書は、今年度の調査研究の成果としてまとめたリーフレット『学校で保護者対象の学びを企画する方へ！～「親学習プログラム」をやってみませんか？～』詳細版という位置付けで、県立学校対象のアンケート調査の結果や研究協力校での取組などをまとめた構成となっています。「親学習プログラム」の新たな可能性を知るきっかけとされ、実際に取り組む際の資料として大いに役立てていただけたら幸いです。

県総合教育センターとしても、今回の調査研究の成果を今後の研修や会議等で積極的に情報発信し、「親学習プログラム」の活用を促すことにより、切れ目ない家庭教育支援の充実を図る一助としたいと考えております。

最後に、本調査研究を行うにあたり、御支援・御協力をいただいた宇都宮共和大学特任教授牧野カツコ氏をはじめとする研究協力委員及び研究協力校の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 31 年３月

栃木県総合教育センター所長　大森　亮一

目　次

はじめに

第１章　「親学習プログラム」の活用状況調査

１　研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　県立学校対象のアンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・４

３　ヒアリング調査・鹿沼東高等学校・・・・・・・・・・・・・・14

コラム「親としての学び合いを高校でも」・・・・・・・・・・・・・17

第２章　「親学習プログラム」の実践事例

１　栃木工業高等学校での実践・・・・・・・・・・・・・・・・・19

２　栃木特別支援学校での実践・・・・・・・・・・・・・・・・・24

第３章　まとめ

１　研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

２　今後に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

参考資料

１　県立学校対象のアンケート調査紙・・・・・・・・・・・・・・32

２　栃木工業高等学校でのプログラム関係・・・・・・・・・・・・34

３　栃木特別支援学校でのプログラム関係・・・・・・・・・・・・38

４　リーフレット『学校で保護者対象の学びを企画する方へ

　～「親学習プログラム」をやってみませんか？～』・・・・・・41

第１章　「親学習プログラム」の活用状況調査

今年度の調査研究は、17 年ぶりに家庭教育を取り上げた昨年度の調査研究を受けて実施したものである。昨年度の「栃木県における家庭教育支援の状況調査」から明らかになったものを基に、研究のテーマや方針を設定し、「思春期版家庭教育支援プログラムの見直し」を進めた。

具体的には、県立学校における活用状況調査で現状を把握し、研究協力委員とプログラム活用等について協議を行い、研究協力校での実践を通して、最後は研究成果を資料にまとめるなどして普及、啓発を図ることを研究方法とした。

この第１章では、今年度の調査研究のテーマや方針等を設定した経緯や、県立学校における「親学習プログラム」の活用状況を把握するために実施した、アンケートやヒアリング調査を中心に紹介する。

１－１　研究の概要

（１）研究の背景と目的

今年度の調査研究は、17 年ぶりに家庭教育を取り上げ実施した昨年度の「栃木県における家庭教育支援の状況調査」を受けたものである。

具体的には、「ＰＴＡ指導者研修参加者への調査」「市町教育委員会生涯学習課への調査」「公民館等への調査」と大きく３つの取組があり、主にアンケートやヒアリング調査を実施した。ＰＴＡ指導者研修とは、小中高特別支援学校においてＰＴＡで指導的立場にある保護者や教員等を対象に、資質向上を図ることを目的として、教育事務所ごとに行われるものである。

図１は、ＰＴＡ指導者研修参加者への調査結果から、「子育てに関して学んでみたいことは何ですか」に対する回答をまとめ、保護者と教員のそれぞれ上位４位までを表にしたものである。教員には、保護者側に出てこない「スマホやゲーム等」の関心が最も高いといった違いが見られるが、子どもとの関わり方や思春期の向き合い方については、保護者・教員のどちらにも入っており、関心の高いことが分かる。

学んでみたいこと保護者・教員別、上位4テーマ
（複数回答）(保護者n=665 教員n=302)

保護者

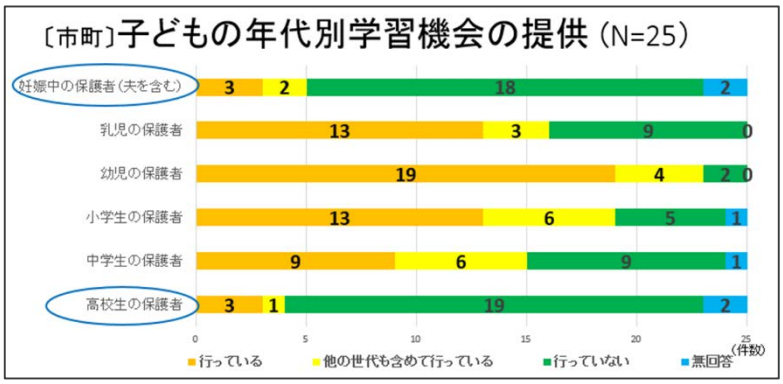
順位	テ ー マ	%
1	子どものほめ方、しかり方	42.1
2	思春期の子どもとの向き合い方	39.7
3	親の役割	33.2
4	進路について	23.8

教員

順位	テ ー マ	%
1	スマートフォン・ゲーム機器等	35.4
2	親の役割	34.8
3	子どものほめ方、しかり方	34.1
4	思春期の子どもとの向き合い方	26.2

【図１】

図２は、市町教委生涯学習課等への調査結果から、子どもの年代別学習機会の提供に対する回答をまとめたものである。妊娠中と高校生の保護者対象の提供が、他に比べて非常に少なくなっており、公民館等への調査結果も同様であった。



【図 2】

そういった調査結果から、家庭教育支援の対象は、乳幼児から小学生の保護者が中心で、妊娠中の保護者と高校生の保護者に対しては、学習機会、親子の体験活動とも少ないといったことなどが見えてきた。そこで、今年度は、保護者が学びたいニーズとして「思春期の子どもとの向き合い方」が高いこと、乳幼児期から子どもが自立するまでの切れ目ない家庭教育支援を考慮した場合、市町では提供されることが少ない高校生の保護者を対象とした学習機会の実情を確認すること、県の支援として要望があった「学習プログラムの提供」に焦点をあてることにした。さらに、昨年度から引き続き研究顧問を依頼している牧野カツコ宇都宮共和大学特任教授からの「より活用してもらえるための調査研究ができたら」という助言を考慮し、研究のテーマ等を設定することにした。

そこで研究をどう進めていくのか考えた際に、「思春期・保護者対象・プログラム」というワードから結びつくものとして、県がすでに作成している「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」があった。このプログラムを柱にしていこうと決めたが、聞こえてくるのは、「活用されていない、知らない」といったものであった。そこで、取り組みやすく、効果的に展開できる親学習プログラムと

なれば、積極的に活用され、学習機会の充実が図れると考え、すでにある「思春期版家庭教育支援プログラム」を見直し、工夫改善を図っていくこととした。

（２）研究の方法

「思春期」を対象とした研究のため、まず県立学校における「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用状況を調査して現状を把握することからスタートし、その結果を基に研究協力委員とプログラム活用等について協議を行い、研究協力校での実践を通して、最後は研究成果を資料にまとめ普及・啓発を図るという研究方法にした。

研究協力委員は、顧問の牧野カツコ先生の他に、生涯学習課、各教育事務所の家庭教育担当者や、地域での活動実践者である県家庭教育オピニオンリーダー連合会長、親学習チーム日光代表といった家庭教育支援プログラムに関わりの深い方々にお願いをした。

（３）成果の活用

・県立高等学校、特別支援学校に資料（リーフレット）を配付するとともに、総合教育センターWebサイトに掲載することで、広く周知し活用促進を図る。
・研修や会議等において、調査研究の成果を説明する内容を入れ、教員に対して直接的な働きかけを行う。
・県立学校ＰＴＡでリーダー的な立場にある保護者に対して、調査研究の成果を紹介するなど直接的に働きかける。

（４）主な活動内容

・研究協力員の委嘱
・研究協力校の選定
・研究会議
・県立学校対象のアンケート調査、ヒアリング調査
・研究協力校でのプログラム実施
・県立高等学校 PTA 研修会での研究についての紹介
・教育研究発表大会での発表
・成果物（リーフレット）作成

１－２　県立学校対象のアンケート調査

（１）　調査の目的

県立高等学校、特別支援学校における親学習プログラムの活用状況を把握し、「親学習プログラム」を効果的に展開するために何が必要かを探るためのデータを得る。

（２）　調査対象

県立高等学校 69 校（全日制 59、定時・通信制 10)、特別支援学校 16 校、附属中学校３校の計 88 校を対象に行った。

（３）　調査方法

電子データによる調査書に記入していただくという方法で、今年度も含めて過去３年間の状況について回答を得た。回収率 100%であった。

対　象	数	回収数	回収率
高等学校	６９校	６９	１００%
特別支援学校	１６校	１６	１００%
附属中学校	３校	３	１００%

（４）　調査内容

【保護者を対象にした学ぶ機会】

・保護者を対象にした学びの機会の有無

・親学習プログラムの活用の有無

・保護者を対象にした学ぶ機会を提供する際に重視している点

【親学習プログラム指導者の活用がある場合】

・活用の仕方（いつ、だれが進行役となり、どんな場面で、どのようなテーマで）

・効果を感じていること

・プログラムをさらに充実させるために必要なこと

・外部人材活用の有無

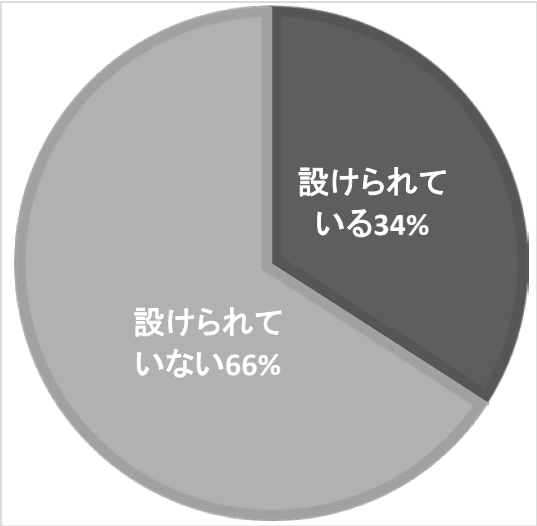
・外部人材活用で感じていること

【親学習プログラムの活用がない場合】

・活用したことがない理由

（５）集計結果

【問１】貴校において、保護者を対象に子どもとの関わり方について学ぶ機会が設けられていますか。

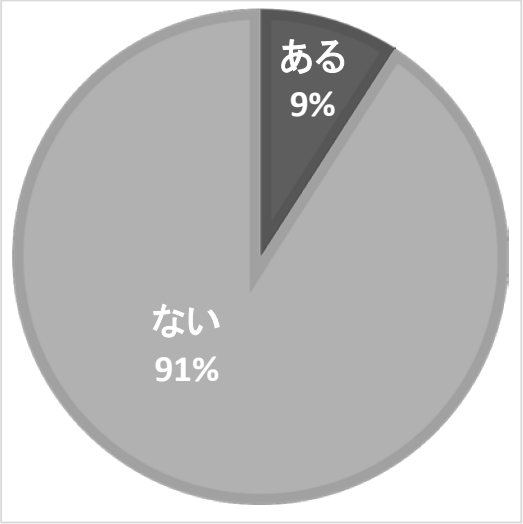


設けられている学校の割合が 34%で、具体的な取組としては、ＰＴＡ総会や学年保護者会、支部会といった保護者が集まる機会に講演会を行うという回答が多く見られた。

【問２】貴校において、保護者を対象にした学びの機会に親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムを活用したことがありますか。

※活用したことがある→問３～問８へ

※活用したことがない→問９へ



活用があると回答した学校の割合は９％で、その内訳は、高等学校４校、特別支援学校３校、附属中学校１校であった。

【問３】活用の仕方（いつ、だれが進行役となり、どんな場面で、どのようなテーマ）について詳しく教えてください。※複数回実施している場合はそれぞれお書きください。

◎いつ

Ｈ29 以前：10 件（７校）、Ｈ30 実施：２件（２校）、Ｈ30 予定：２件（2 校）

◎進行役

県職員：11 件、家庭教育支援チーム：１件、臨床心理士：１件、外部講師：１件

◎場面

ＰＴＡ学年部会・保護者会：７件、ＰＴＡ研修会：４件、ＰＴＡ総会：２件、振興大会１件

◎テーマ

「我が子は思春期真っ只中！～思春期の子育ては戸惑いや悩みの連続です～」：６件

「我が子の進路とどう向き合ってますか？」：３件

「思春期の子どもとの関わり方」：１件

「障害のある我が子の理解～社会的自立までの子どもの成長に応じた保護者の対応～」：１件

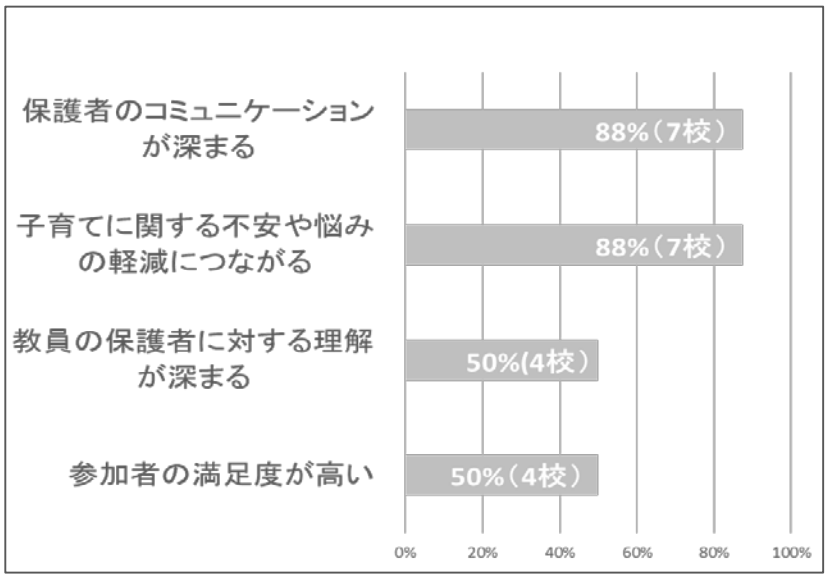
「将来の生活設計における家族で準備しておくこと」：１件

その他：２件

今年度の活用があるのは４校で、過去３年間に実施校は、７校から４校になっていることが分かった。進行役は外部人材が務め、活用場面の多くがＰＴＡの集まりだった。実施しているテーマの多くは、子どもとの関わり方、向き合い方に関するものであった。

【問４】プログラムを活用している中で効果を感じていることについて、あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

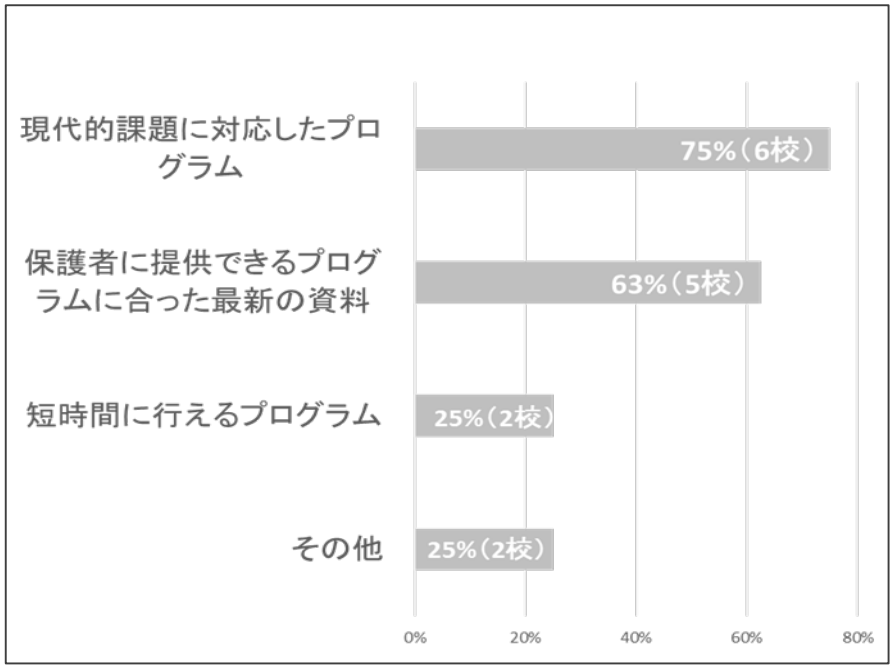
［活用がある学校(８校)の集計結果］



「保護者のコミュニケーションが深まる」、「子育てに関する悩みの軽減につながる」という回答が多い結果となった。具体的な内容として、「話し合い・発表して悩みを共有できるところがよい」「教員側も保護者理解の場としてよい機会になる」という回答があった。

【問５】プログラムをさらに充実させるために必要なことについて、あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

［活用がある学校(８校)の集計結果］



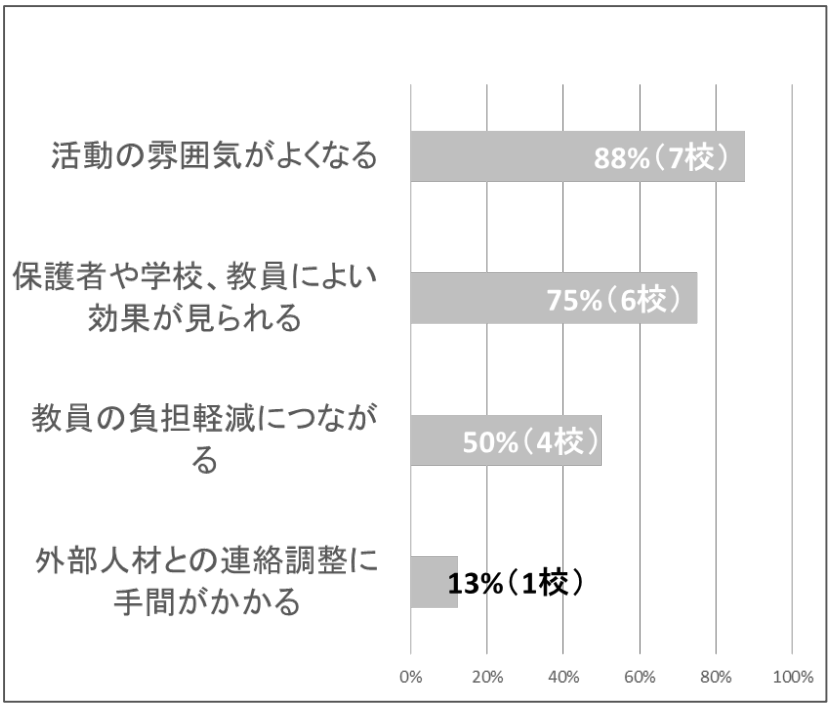
「現代的課題に対応したプログラム」、「保護者に提供できるプログラムに合った最新の資料」という回答が多い結果となった。その他では、「ワークショップ形式は楽しめる保護者がいる反面、嫌がる保護者もいます。それがある故に、保護者会に参加したくないという保護者もいます」、「特別支援学校では、児童生徒の個人差が大きいため、一つのプログラムを全てに共通させることは難しいと感じている」という回答があった。

【問６】貴校において、外部人材を活用して親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムを実施したことがありますか。

→８校全てが「実施したことがある」と回答。

【問７】外部人材を活用している中で感じていることや考えについて、あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

［活用がある学校(８校)の集計結果］



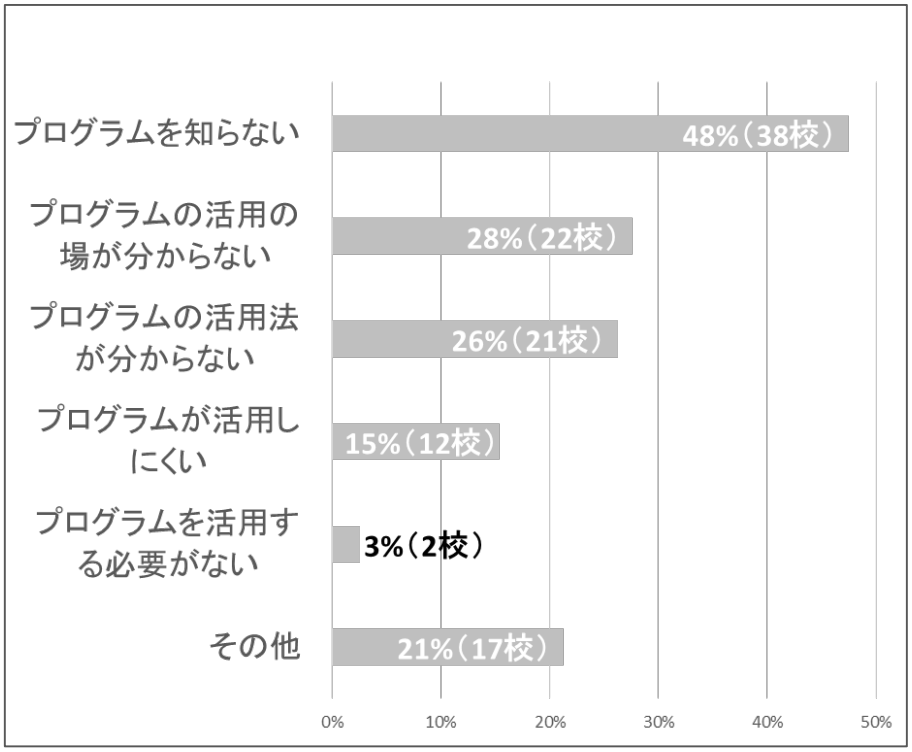
「活動の雰囲気がよくなる」、「保護者や学校、教員によい効果が見られる」という回答が多い結果となった。具体的な内容として、「教員の保護者への対応が丁寧になる」、「会場づくりなども含めて全部やってくれるのでありがたい」という回答があった。

【問８】外部人材を活用していない理由について、あてはまるものすべてを選んでください。

→８校全て外部人材を活用しているため、回答した学校はなかった。

【問９】活用したことがない理由について、あてはまるものすべてを選び、具体的な理由があれば空欄にお書きください。

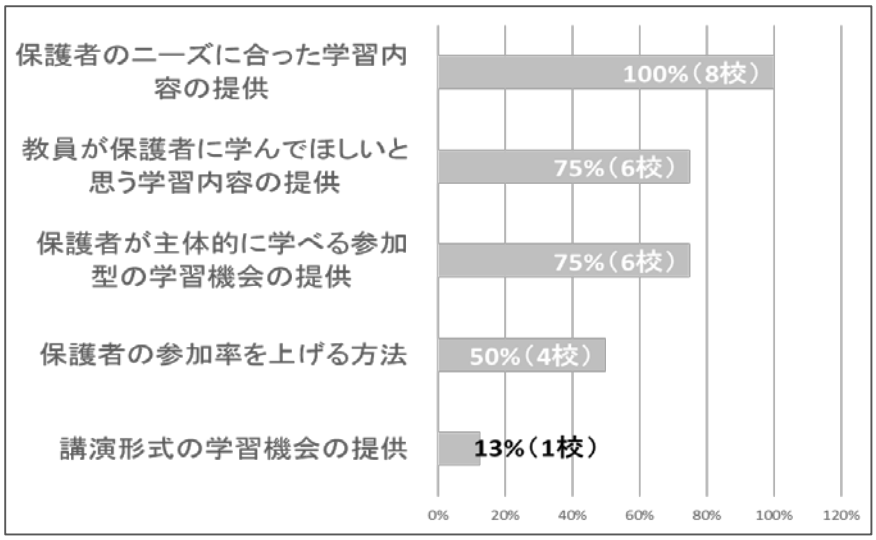
［活用がない学校(80 校)の集計結果］



「プログラムを知らない」という回答が最も多く、続いて「活用の場が分からない」、「活用法が分からない」であった。具体的な内容として、「長時間に及ぶプログラムは活用しにくい」、「教員に、新しいもの（主体的に学ぶ、参加型の学習プログラム）には取り組みづらい、負担が増えるという意識があるように思う」、「プログラムがあるということは知っていたが、その内容を確認したことがなかった。今後、機会があればプログラムを活用することを検討したい」という回答があった。その他では、「行事に新たに組み入れる時間的、人的余裕がない」といった回答があった。

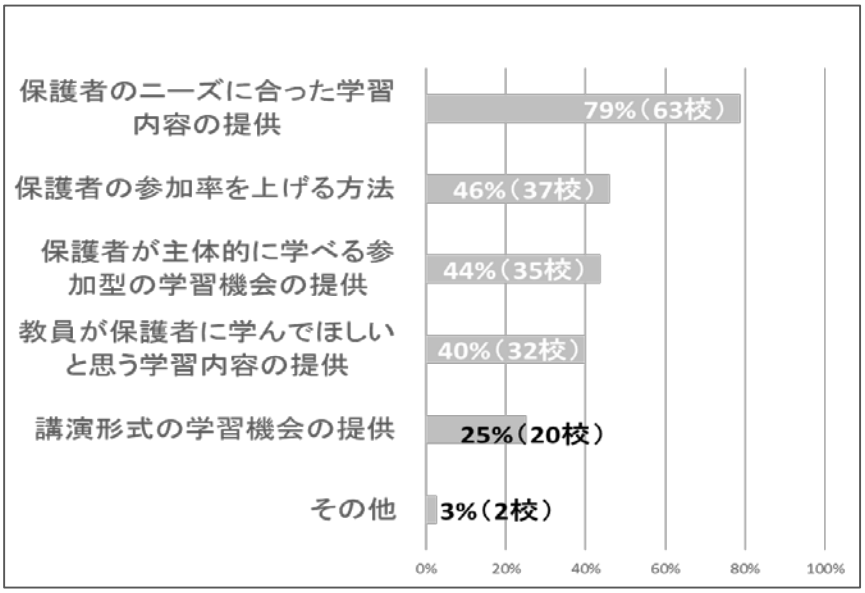
【問 10】貴校において、保護者が子育てについて学ぶ機会を提供する（提供することになった）際、重視している（重視したい）点をすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

［活用がある学校(８校)の集計結果］



「保護者のニーズに合った内容の提供」を全ての学校が回答していた。また、「教員が保護者に学んでほしいと思う学習内容の提供」、「保護者が主体的に学べる参加型学習機会の提供」の回答も多かった。具体的な内容として、「短時間でできるプログラムを PTA 総会に組み込み、総会の出席率と保護者学習の参加者の両方を増やしたい」という回答があった。

［活用がない学校(80 校)の集計結果］



「保護者のニーズに合った内容の提供」という回答が最も多かった。具体的な内容として、「アンケートを取り、研修内容の希望を聞いて参考にしている」、「学校への関心を持つ保護者ばかりではないので、参加してみたいと思わせる内容、魅力の持てる内容について苦慮している状況にある」という回答があった。その他では、「日時、場所、内容など保護者が参加しやすい設定にする」という回答があった。

【問 11】その他、親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムについて、何か御意見等ありましたらお聞かせください。

［活用がある学校(８校)の集計結果］

〇プログラムに対する自由記述

・通学区域が広域になる高等学校の保護者は、相互に交流する機会が少ない。

・「同じ悩みを持つ御家庭があり安心した（ウチの子だけではなかった）」、「他の親御さんの話を聞けて参考になった」、「楽しく参加できた」、「また来年も参加したい」など、特に１学年において非常に好評である。

・プログラムを運営するファシリテーターの力量や、保護者同士の活発な交流を目の当たりにして、立ち会った本校教員にとっても大変参考となっている。多くの学校で導入してはどうか。

・保護者の話合いのみに終わらせるのではなく、最後に、権威のある人からの「こうしたらよい」という具体的なアドバイスがある資料等が配付されると参加者の満足度や、学習したという実感が高まるのではないか。

・講師に来てくださった方以外にも、特別支援学校の実態を踏まえた保護者向けのお話やワークショップをしていただける外部人材がいるなら情報提供していただければ、今後の参考にしたい。

・保護者からは、思春期の子どもとの関わり方に関する悩み（反抗期）の相談が多いため、その解決の糸口になれば、と思っている。子育てに関する他の問題についても、専門家のアドバイスが受けられる研修があれば、活用していきたい。

［活用がない学校(80 校)の集計結果］

〇プログラムに対する自由記述

・これをきっかけに内容について学ばせていただき、活用できるところは利用を計画したい。

・勉強不足のため本プログラム内容の詳細は分からないが、親に対して子どものことについて学んでもらう機会を設けることはとても良いことだと思う。

・できれば中学生のときにプログラムを実施していただけると良いのではないかと思う。

・本校ではこのプログラムを活用したことがないので、ＰＴＡ総会や学年部会の際に配付できるようなリーフレット等をご紹介いただけると助かる。

・短時間で実施できるプログラムの存在を知りたい。

・子育てを終えた先輩諸氏の体験談やアドバイスなどであれば親は関心を示すかもしれない。

・このプログラムに関する先生方の認知度は低いと考えられる。実際に学校行事の計画を担当する教務主任（教務担当主幹教諭）の研修機会があれば、このプログラムの活用法について紹介してもよいかと思う。

・プログラムの内容を抜粋し、本校の実態に合わせて活用したいと思った。

・プログラムについて、理解不足だったので、今後理解を深めて、活用できればよいと思った。
・内容は大変よいものだと思うが、本校の実態として、多種多様な病気・障害のある児童生徒が在籍し、少人数なため、一斉に同じ内容で学習会を実施することが難しいのが現状である。
・必要な生徒（家庭）がでた際にすぐに取り出して使えるようなデータの保管と継続的な周知をお願いできればありがたい。
・プログラムについて校内で引継ぎが十分ではなかった。今後、参考にさせていただこうと思う。
・保護者の子育てに関する研修の機会を持っているので、プログラムの必要性をあまり感じていない。

（６）アンケート調査のまとめ

保護者を対象に子どもとの関わり方について学ぶ機会を設けているのは、30 校 34%であった。そして、保護者を対象にした学びの機会に「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」を活用したことがあるのは、８校９％という１割に満たない状況であった。高校生の保護者対象の学習機会の提供が少ないことが明らかになるとともに、「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用状況について知ることができた。

「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用がある学校については、過去３年間での実施が７校から４校になり、減少傾向にあることが分かった。また、活用している中で、「保護者のコミュニケーションが深まる」、「子育てに関する悩みの軽減につながる」といった効果を感じている学校が多く、「同じような悩みや考えを持つ存在を知ることができる」、「正解を求めるのではなく、話し合い、発表して悩みを共有できる」、「教員側の保護者理解の場として良い機会になる」といった参加型学習のメリットについても十分感じ取っている学校があった。そして、全ての学校で、実施する際は外部人材を活用しており、「活動の雰囲気がよくなる」、「保護者や学校、教員によい効果が見られる」といった効果を多くの学校で感じていた。さらに教員の負担軽減につながると感じている学校が半数あり、「会場づくりなども含めて全部やってくれるのでありがたい」といった回答も見られた。

「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用がない学校については、活用したことがない理由として、「プログラムを知らない」が最も多く、続いて「活用の場が分からない」、「活用法が分からない」であった。その他の理由に、「行事に新たに組み入れる時間的、人的余裕がない」といった回答が多く見られたり、「親学習プログラム」の周知が不十分で、よく分からないものと見なされたりしている状況を確認することができた。

保護者を対象に子育てについて学ぶ機会を提供する際に重視している点を尋ねたところ、活用がある学校も活用がない学校も「保護者のニーズに合った学習内容の提供」が最も多い回答であった。また、「講演形式の学習機会の提供」を重視しているとする学校は、活用がある学校の１校に対して、活用がない学校は 20 校となり、回答結果に差が見られた。

自由記述において、活用がある学校では、「通学区域が広域になる高校の保護者は相互に交流する機

会が少ない」、「プログラム実施は教員にとって大変参考になっている、多くの学校で導入してはどうか」、「具体的なアドバイスがある資料等の配付で参加者の満足度や意欲が高まるのでは」、「特別支援学校の実態を把握している外部人材がいたら情報提供してほしい」、「保護者からは子どもとの関わり方に関する悩みの相談が多い」といったことがあった。また、活用がない学校では、「プログラムについて理解不足だった」、「引き継ぎが不十分だった」、「先生の認知度は低い」、「研修の機会があれば紹介してもよい」、「本校の実態に合わせて活用したい」、「短時間で実施できるプログラムを知りたい」、特別支援学校からは、「子育てを終えた方の体験談やアドバイスなどあれば保護者は関心を示すかもしれない」、「児童の実態や人数によって一斉に同じ内容は難しい」といったことが出ていた。

１－３　ヒアリング調査・鹿沼東高等学校

県立学校対象のアンケート調査結果から、親学習プログラム実施校が少なくなっている状況が判明したが、そうした中、継続実施している学校がある。その学校にヒアリング調査を行い、持続可能にしている要因等を探ることで、本研究につながるヒントが得られるのではと考えた。

「思春期版家庭教育支援プログラム促進モデル事業」のモデル校として平成 25 年度に「親学習プログラム」の実施をスタートして以来、継続している鹿沼東高等学校に、なぜ続いているのか秘訣などをきいてみた。

どのように実施していますか？

毎年 10 月頃、「思春期の子どもとの関わり方」をテーマに第１学年保護者会学習会で実施しています。実施期日やクラス単位で行うことなど、方法や内容を上都賀教育事務所ふれあい学習課へ伝えると、ファシリテーターの手配から当日の資料準備などすべてやっていただき、大変助かっています。また、親学習プログラム指導者研修を修了した地域で活動されている方がファシリテーターであることも、参加する保護者にとって身近な存在に感じ、安心して話せることにつながっています。毎回保護者の満足度が高く、教員にとっても保護者理解につながる貴重な時間となっています。

担任とファシリテーターが簡単に打合せをしてから開始しました

各クラスにファシリテーターが入り、ファシリテーターの見事な進行により終始明るい雰囲気でした

［平成 30 年度第 1 学年保護者学習会より］

実施することでどんな効果がありますか？

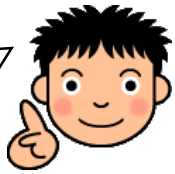
通学範囲が広いため、特に第１学年は生徒も保護者も孤立してしまう恐れがあります。しかし、親学習プログラムを実施することによって、保護者同士をつなぐネットワークづくりになり、生徒と親を孤立させないために大いに役立っています。また、これからの学びの形態として重要視されている「アクティブラーニング」について、教員や生徒向けには研修や学習会など行うことはありますが、保護者向けには特にありません。でも、親学習プログラムを実施することで、保護者向けの学びの場として提供できることになり、家庭の教育力向上を図ることにもつながっていきます。

継続できている要因は何ですか？

準備いらずで手軽に実施できる上に、生き生きと参加する保護者の姿を実際に目の当たりにした教員にとって保護者理解につながっていることが大きな要因になっていると思います。そして、第１学年で必ず実施するよう次年度の行事予定にしっかりと組み入れているのも大切なところです。また、継続してきたことで、親学習プログラムの様子や効果を知っている教員がどの学年にもいるようになっています。

「親学習プログラム」のファシリテーターは、親学習プログラム指導者研修修了者や総合教育センター、各教育事務所の社会教育主事が務めます。親学習プログラム指導者研修修了者は、グループを作り市町の事業や公民館の講座などでボランティアで活躍しています。

今後について何かお考えなどありますか？



過去に、第２学年でも親学習プログラムを実施したことがありました。その時は、第１学年の実施日と連続し、ファシリテーターの確保に大変苦労したため、それ以降は実施していません。ただ、親学習プログラムの効果を考えると、第２学年でも実施したいと強く思っていて、次年度は、ＰＴＡ総会の全体会後に短時間プログラム（進路に関する内容）を実施する方向で考えています。

今回の調査研究や親学習プログラムに対してアドバイスをお願いします！

「親学習プログラム」という名前が堅く、その名前を見ただけで保護者は構えてしまったり、参加を断ったりすることもあります。もっと柔らかい印象の名前（キャッチコピー的な）を考えてもよいと思います。例えば、「〇〇トーク」、「親？トーク」、「保護者版アクティブラーニング」など、保護者目線で考えることも必要ではないでしょうか。また、対象の人数や会場、時期に合わせて選べることができるプログラムが用意されているとよいと思います。例えば、教材キットのように、実施時間に合わせてＳ・Ｍ・Ｌセットを提供するといったようなことができると、活用促進につながるのではないかと思われます。

今回の調査研究で、短時間プログラムを新たに開発されていると伺い、大変期待しています。活用する学校を増やすために、協力できることがあれば、喜んでやらせていただきます。

☆コラム

親としての学び合いを高校でも

宇都宮共和大学
特任教授
牧野カツコ

子どもが高校生になると、親はほっとして子育てが終わったような気持ちになることが多いと思います。しかし現実には、終わるどころか、新しい悩みや不安が山積します。高校生になったのだからと、放任してしまう親もあります。親子でほとんど会話ができなくなることもあります。

世の中はどんどん変化して、子どもたちが世の中で活躍する 10 年後、20 年後には通信手段も職業も働き方も大きく変わっていることでしょう。親世代が自分たちが学んだ知識や技術を子ども世代に教え込むという時代ではなくなりました。親もまた新しい親の役割を学んでいかなければならない時代です。親たちはどのように親の在り方を学んでいけばよいのでしょうか。

大切なことは、同じ世代の親同士が、共に学び合うことで最も力になる学習ができるということです。

子どもの将来や生き方などについては、正しい答えが一つだけあるわけではありません。親の在り方も正解が一つではありません。いろいろな親がいろいろな子育てをしています。多様な生き方、多様な考え方があることを知ること、なぜそうしているのかを知ることで、自分も豊かになることができるのです。

親の役目は終わることはありません。学校は、もっと思春期の子を持つ親同士が、学び合える場となって欲しいと思います。保護者や教師、地域の人材が一緒に、自分の学校に合った学びの場を工夫されることを期待します。

保護者が子どもに大事なことを語ることができる最終段階が高校時代である。

親学習の基本は、他人の話を聞いて、それぞれの考えの違いを知ることである。

［研究会議の様子］

第２章　「親学習プログラム」の実践事例

県立学校対象のアンケート調査結果において、親学習プログラムの活用がない学校からの回答にあった「プログラムを知りたい」「短時間プログラムならできそう」に焦点を当て、研究協力委員とともに短時間プログラムの開発、協力校での実践、実施後の分析とプログラムの見直し等を行った。

この第２章では、栃木工業高等学校と栃木特別支援学校において実践した短時間プログラムの展開を中心に、活動の実際の様子なども含めて紹介する。

［栃木工業高等学校での実践］

［栃木特別支援学校での実践］

２－１　栃木工業高等学校での実践

栃木工業高等学校では、これまで講話型のＰＴＡ学年部会が通例で、保護者同士が交流を図りながら子育てについて振り返るといった新たな内容を取り入れたいと考えていた。そこで、保護者同士で話し合い、保護者として子どもにどう関わるかについて考えるきっかけになることを期待して、「親学習プログラム」を取り入れた参加型の学習会を新たに実施することにした。

実施にあたっては、総合教育センター職員と第１学年主任との数回の打合せで、時程や内容、準備物等の確認をしただけで、当日の配付資料の準備や進行などはすべてファシリテーターが行った。

実施校の現状	・生徒数約 600 名で女子の割合が少なく、約８割が就職（県内が多い）という進路状況である。 ・講話型の機会がずっと続き、今回が初めての親学習プログラム実施となる。 ・ワークショップにおいても知識的なことを保護者に伝える時間を入れたいと考えている。		
テーマ	「思春期の子どもとの向き合い方学習会　～我が子は思春期真っ只中～」		
参加者	第１学年保護者 123 名	会　場	体育館
ねらい	・思春期の子どもとの向き合い方について保護者同士で話合い、保護者として子どもにどう関わるかについて考えるきっかけとする。		
実施のポイント	・楽しい雰囲気の中で、保護者同士がコミュニケーションを図り、意見や情報交換等ができるようにする。 ・普段の子どもとの関わり方をふりかえり、悩みを共有することで不安を解消し、今後の子どもへの接し方を考えられるようにする。		
事前の準備	◇３つの約束カード　◇名札シート（タックシール）　◇アンケート回収箱 ◇配付資料（レジュメ、参考資料、アンケート用紙）		

	展　　開	◆展開のポイント
導入 ８分	◎テーマと注意事項の確認 ・学習会のねらいや注意事項を説明 ・「３つの約束（参加・尊重・守秘）」はカードを使用 注意事項を確認した後、「後出しじゃんけん」を行ったことで、緊張や場の雰囲気が和らぎました。 １　自己紹介をする。 ⑴　グループ分け（座席ごと３～４人組） 椅子の配置を工夫したことで、グループ分けが短時間で済みました。	◆安心して話合いができる雰囲気がつくれるようにする。 ◆座席の近く同士でグループ分けをして時間をかけないようにする。 ポイント ・名札シートは事前に子どもに書かせておくと保護者の手間を省ける！ ※子どもが書いた文字を見て感動する保護者もいた。 ポイント ・説明を簡潔にすることで、話す時間の確保に！ ・少しの時間だけでもゲームを入れると雰囲気が和らぐ！ ・椅子の配置を工夫すると時間の節約に！ ※今回は前後２人で４人グループが作れるように椅子と椅子の間隔を開けて配置した。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>⑵　自己紹介その１（子どもの名前と出身中学または住まい）
⑶　自己紹介その２（自分が高校時代に夢中になっていたこと）
</td>
<td>◆現在、高校生である子どもの気持ちを想像する準備とする。
◆グループ内で話合いがしやすくなる雰囲気づくりにつなげる。
◆自己紹介その２は、１人１分程度で話してもらう。

ポイント
・まず名前程度を述べる「自己紹介その１」を入れたことで話しやすい雰囲気づくりに！
※いきなりたくさん話すより、短くテンポよく進めると話しやすくなる。</td>
</tr>
<tr>
<td>W
1

12
分</td>
<td>２　レジュメをもとに、グループで子どもの気になっていることや心配なことについて自由に話し合う。
・最近の子どもの様子
・自分と子どもとの関係
・家族と子どもとの関係　等
</td>
<td>◆子どものことについて、最近気になっていること、悩みや不安等を自由に話してもらう。
◆自分と子どもの関係をふりかえる機会とする。

ポイント
・全体で共有する際は、様子を観察していた進行補助がグループでの様子を伝えるといった話し手になると時間短縮に！
※ファシリテーターが各グループをまわって意見を集めるよりも楽に時間をかけずに済む。</td>
</tr>
<tr>
<td>資
料
３
分</td>
<td>３　資料をもとに思春期の子どもの特徴や傾向を確認する。
・資料「思春期とはこんな時期です」を活用

ポイント
・資料の全てを説明する時間は無いので、大事な部分を太字で表しておく！
・説明する際に、分かりやすい事例やエピソードを入れると効果的！
※「保護者の皆さんも通ってきた道ですから･･･」、「思春期を過ぎた今の自分だから理解できるのでは･･･」といったフレーズなどぜひ！</td>
<td>◆実例の話を取り入れるなどして、高校生の悩みや不安について理解を深めさせる。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>ふりかえり7分</td>
<td>４　ふりかえり
⑴　今後、思春期の子どもと関わる上で心がけたいことや保護者の心構えについて話し合う。
・個人で考えた後、グループ内での話合い
⑵　全体でわかちあう。

グループでの話合いから気付いたことなどを基に、今後の心構えなどを考えていました。</td>
<td>◆保護者の関わり方を中心に、家族と子ども、家族間、夫婦間で心がけたいことについても考えさせる。
◆グループでどんなことが話し合われたか発表してもらうことを、事前に伝えておく。
◆高校生の悩みや不安を受け止めていく上で、保護者同士や保護者と教員との良好な関係づくりも大切であることにふれる。

ポイント
・話し合う前に自分の考えなどを書く時間はとらない！
※保護者同士のよい雰囲気を最後まで持続させるためにも、書くことよりも、話すことに時間をとる。

・全体でわかちあう際は、進行補助が話し手になると時間短縮に！</td>
</tr>
<tr>
<td>事後</td>
<td>〇アンケート用紙に記入する。
・クラス懇談会開始前の教室移動時間を使って記入する。

ポイント
・参加者が記入する際に困らないよう用具の準備を！
※鉛筆だけでなく、会場によってはバインダーなども必要。</td>
<td>◆クラス懇談会へ移動するまでの時間を利用して記入してもらう。
◆担当がアンケート回収箱を用意して、回収を行う。</td>
</tr>
</table>

【参考資料】

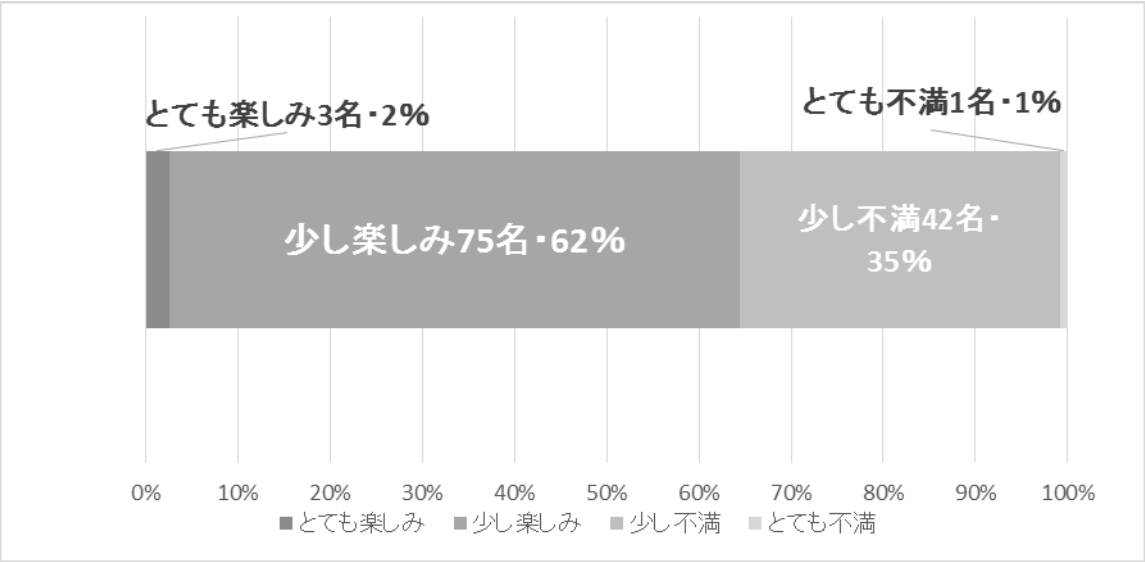
栃木工業高等学校第１学年保護者会　思春期の子どもとの向き合い方学習会アンケート集計結果

（回答者 123 名）

1　今回のプログラム「思春期の子どもとの向き合い方学習会～我が子は思春期真っ只中～」はいかがでしたか。
※実施前後の気持ちについて、あてはまるもの（近いもの）に〇を付けてください。

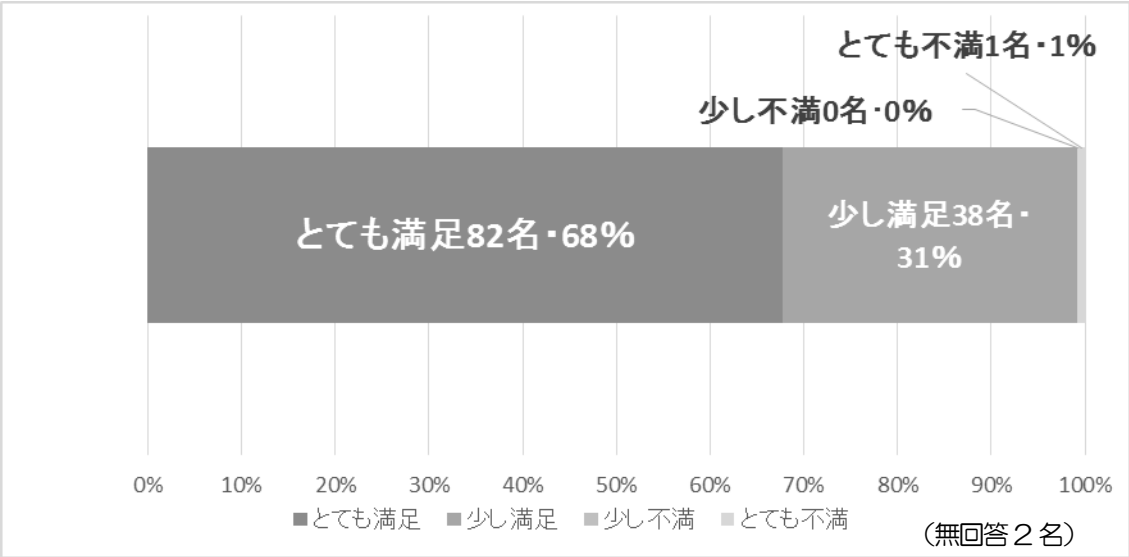
（1）実施前の気持ち

とても楽しみ　　少し楽しみ　　少し不満　　とても不満



（2）実施後の気持ち

とても満足　　少し満足　　少し不満　　とても不満



（無回答２名）

☆気持ちの変容について　（回答者 123 名中）

・「とても満足」「少し満足」に変わった（気持ちがプラスに）　92 名（76.0%）
・「少し不満」「とても不満」に変わった（気持ちがマイナスに）　１名（0.8%）

２　今回のプログラムに参加して、「気付き」や「学び」などありましたか。　（回答者 123 名中）
※あてはまるもに○を付けてください。（複数回答可）

ア	思春期の子どもの特性を理解することができた。	４４名（35.8%）
イ	自分の子育てを振り返る機会となった。	６３名（51.2%）
ウ	他の人も同じような悩みや不安を持っていることが分かり安心した。	９３名（75.6%）
エ	新たなつながり（知り合い）をつくることができた。	６０名（48.8%）
オ	これから生かしたい、実践したいと思えることがあった。	２６名（21.1%）
カ	今後のPTA 活動や学校行事に参加しやすくなった。	１５名（12.2%）
キ	その他（具体的にお聞かせください）	４名（ 3.3%）

・声掛けって大切なことだと感じた。話しかけても無視されるから放っておこうと思っていたが、放っておくと見捨てられた気がして「すねる」という矛盾もあると知り、放っておくことはだめだと思った。帰ったら何でもいいので声掛けしたい。
・他の方といろいろな話ができてよい時間だった。
・下の子（中１）のことで悩んでいた時期だったので、とても勉強になった。
・やはり思春期は、その子それぞれなのだと思った。

３　その他、今回のプログラムについて、御意見・御感想を自由にお書きください。

○最初、知らない人と話すことが不安だった。座ってみて共通の状況や悩み、笑いがあり大変面白くためになった。
○人による考え方の違いを聞けて楽しかった。
○他の方の意見を聞けて安心できた。
○グループディスカッションはとてもよいと思う。
○他のお母さんの意見も聞けてよかった。
○始まる前は少し不安だったが、皆同じ悩みを持っていたり、違ったりしていることもあって、いろいろ知ることができてよかった。
○自分の思春期を思い出した。
○３～４人で話が分かりやすくてよかった。
○クラスのお母さんと話せるよい機会だった。
○クラスの保護者の方と話ができて、とても楽しく参加することができよい機会だった。
○同じ中学校卒の保護者さんたちしか知らなくて、他の中学校卒の保護者さんと話せてよかった。
○同じ年の子を持つお母さんたちと話して、いろいろ聞けてとても参考になった。

○とても楽しかった。
○保護者の方といろいろ話せて、いいつながりができ、本当によかった。
○保護者のコミュニケーションにもなる。
○このような機会がないと話をするチャンスもないので、今回はとてもありがたいプログラムだった。
○話を聞くだけでなく、参加型だったので参加しやすかった。今後、自分がどうしたいかを考える機会になった。
○同じ年頃の子を持つ保護者の気持ちを話すことができてよかった。
○参考になった。同じ年の子どもたちの考えや態度の違い。
○同じ思春期の子を持つ保護者との交流ができてよかった。
○他のお子様にやっていることを参考にして、自分の子どもとの関わりをもっと上手にしていこうと思った。
●中学生と高校生の向き合い方の違いを教えてほしい。（より具体的に）
●今の子どもの年じゃない、もっと早い時期に聞きたかった。
●時間が短すぎる。年１回程度、実施してもらいたい。
●もう少し時間がほしかった。

２－２　栃木特別支援学校での実践

栃木特別支援学校では、これまで講話中心のＰＴＡ研修会を行い話を聞くだけで終わっていたが、参加者が講話内容をより深く理解できるような工夫ができないか考えていた。そこで、講話後に参加者同士で気付いたことや考えたことなどを話し合い、今後の子育てのヒントを得るきっかけになることを期待して、「親学習プログラム」を取り入れた参加型による振り返りを組み合わせて実施した。

実施にあたっては、総合教育センター職員とＰＴＡ担当との数回の打合せで、時程や内容、準備物等の確認をしただけで、当日の配付資料の準備や進行などはすべてファシリテーターが行った。

実施校の現状	・栃木県で初めての知的障害養護学校として昭和 49 年に開校し、遠距離で毎日の通学が困難な児童生徒のために、寄宿舎を設置している。また、医療的ケアを必要とする児童生徒には、学校看護師が対応している。平成 22 年度より肢体不自由の子どもが身近な地域で専門的な教育が受けられるように肢体不自由教育部門が開設され、県内で初めての知肢併置校となる。 ・児童生徒数 276 名で、近隣校（小中高）との交流機会が設けられている。 ・保護者対象の研修会では、講話型の機会が続き、今回が初めての親学習プログラム実施となる。		
テーマ	「思春期の子どもとの関わり方　～レッツ・親トーーーーク～」		
参加者	保護者（小学部～高等部）23 名	会　場	音楽室
ねらい	・思春期の子どもとの向き合い方について保護者同士で話合い、保護者として子どもにどう関わるかについて考えるきっかけとする。		
実施のポイント	・楽しい雰囲気の中で、保護者同士がコミュニケーションを図り、意見や情報交換等ができるようにする。 ・講話の中で心に残ったことなどを基に振り返り、今後の子どもへの接し方を考えるきっかけづくりになるようにする。		
事前の準備	◇3つの約束カード　◇名札シート（タックシール）　◇配付資料（レジュメ、アンケート用紙）		

	展　　開	◆展開のポイント
導入 10分	◎テーマと注意事項の確認 ・学習会のねらいや注意事項を説明 ・「3つの約束（参加・尊重・守秘）」はカードを使用 テンポよい説明で明るくスタートし、「後出しじゃんけん」でさらに雰囲気が和みました。 1　自己紹介をする。 ⑴　自己紹介その1（子どもの名前と住まい等） ⑵　自己紹介その2（最近食べておいしかった物） ポイント ・説明を簡潔にすることで、話す時間の確保に！ ・1人の話す時間を考えると、1グループ3～4人がよい！	◆受付時に名札シートを配付し、子どもの名前と学部を記入してもらう。 ◆安心して話合いができる雰囲気がつくれるようにする。 ポイント ・開始前に参加者の様子を観察して、つながり具合を探っておく！ ※打ち解けている様子だと感じたら、アイスブレイクに時間をかけないやり方に変更する。 ・見やすいグループ表示や優しい音の出るベルなどは参加者の安心感につながる！ ポイント ・「御協力ください」や「終わったら目で合図を送ってください」といった言葉かけなどによって、参加者をファシリテーターの進め方に引き込むことができる！

	 レジュメに書かれてある仕掛けによって、グループ分けがスムーズにできました。	◆自己紹介その１によってグループ内で話合いがしやすくなる雰囲気づくりにつなげる。 ◆自己紹介その2は、１人１分程度で話してもらう。 ポイント ・同じアルファベットでグループを作ることになったり、マーカーの印が描かれている人から話すことになったりという仕掛けは、グループ分けや話す順番を決める時間を短くすることに有効！
W 1 12 分	２　講話を聞いて感じたことを自由に話し合う。 ⑴　講話内容のポイントを再確認する。 ⑵　心に残ったことや響いたことを話す。 時間を決めて交代させたことで、１人１人の話す時間がきちんと確保できました。	◆講話内容のポイントである「思春期の子どもを育てるために大切な 10 のこと」を再確認させ、次の話す活動がスムーズにいくようにする。 ◆自分と子どもの関係をふりかえる機会とする。 ポイント ・講話内容のポイントが分かる資料があると話合いがより深まる！ ※今回は、講話で使用したもの（スライド資料）がそのまま使用できた。
ふりかえり 3 分	３　ふりかえり ・プログラム全体をとおして気付いたことなどを自分の中でまとめる。 子どもへのメッセージを書いてもよいことを伝えると、ほとんどの参加者が記入していました。	◆資料を参考に、実例の話を取り入れるなどして説明し、思春期の子どもに関する理解を深めさせる。 ポイント ・ファシリテーターの実体験などを交えた話を入れると、参加者の最後のまとめに有効！ ※今回は、ファシリテーターが特別支援学校の元保護者であることから、説得力のある話となった。 ・各自、静かに振り返る時間があると、気付きや想いを自分の中でまとめるのに効果的！
事 後	○アンケート用紙に記入する。	◆記入したアンケート用紙は、後日、学校に提出していただく。

ポイント
・アンケートを実施する場合は、実施校と項目内容等を十分確認しないと、正確な結果を把握することができない！
※記入する側は、講話から振り返りまでを一つのまとまりとして捉えている。

【参考資料】

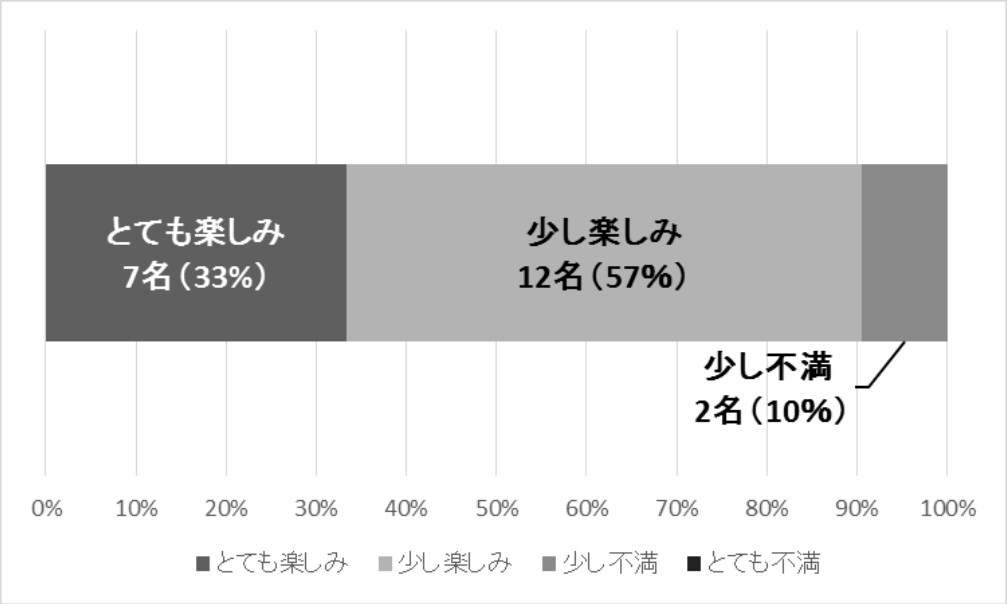
栃木特別支援学校　PTA 研修会　親学習プログラムによる振り返りアンケート集計結果

（回答者２１名）

１　今回の<u>プログラム「思春期の子どもとの関わり方～レッツ・親トーーーーク～」</u>はいかがでしたか。
※実施前後の気持ちについて、あてはまるもの（近いもの）に〇を付けてください。

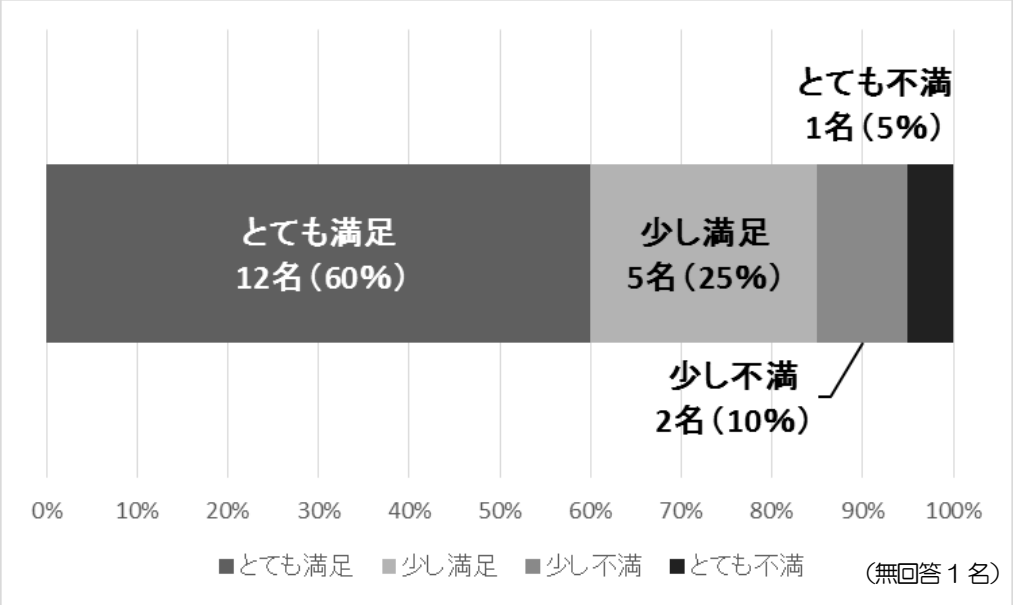
（１）実施前の気持ち

とても楽しみ　　少し楽しみ　　少し不満　　とても不満



（２）実施後の気持ち

とても満足　　少し満足　　少し不満　　とても不満



☆気持ちの変容について　（回答者２１名中）

・「とても満足」「少し満足」に変わった（気持ちがプラスに）　８名（40.0%）
・「少し不満」「とても不満」に変わった（気持ちがマイナスに）　３名（15.0%）

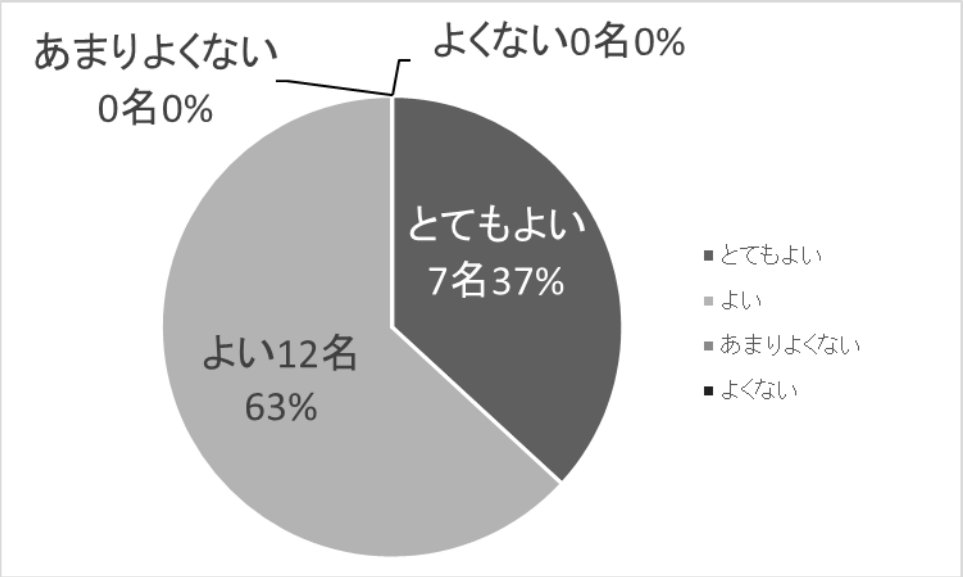
２　今回のプログラムに参加して、「気付き」や「学び」などありましたか。（回答者 21 名中）
※あてはまるもに○を付けてください。（複数回答可）

ア	自分の子育てを振り返る機会となった。	１８名（85.7%）
イ	他の人も同じような悩みや不安を持っていることが分かり安心した。	１５名（71.4%）
ウ	新たなつながり（知り合い）をつくることができた。	５名（13.8%）
エ	これから生かしたい、実践したいと思えることがあった。	１１名（52.4%）
オ	今後の PTA 活動や学校行事に参加しやすくなった。	３名（14.3%）
カ	その他（具体的にお聞かせください）	１名（ 4.8%）

臨床心理士の先生の実際の現場の話が聞けるのでは！と期待していたが、ありきたりの本など、他の講座で聞く話と一緒で少し残念だった。特別支援の親に寄り添った話が聞きたかった。

３　講演後に、親学習プログラムによる振り返りを実施することについてどう思いますか？

とてもよい　　よい　　あまりよくない　　よくない



４　その他、今回のプログラムについて、御意見・御感想を自由にお書きください。

- 何をするのかよく分からず参加したが、とても楽しい時間を過ごすことができた。同じ悩みを持つ方がいるということで、とても心強く、これからもつながっていきたいと思った。
- 他の方との話合いなどによって、自分が考えていた不安や疑問など、これからどう対処したらいいのか、気付かされることが多くて、とても勉強&参考になった。
- とても楽しい時間を過ごせた。先生の笑顔がすてきだった。
- 親としての自分を振り返る貴重な経験ができた。
- 障害のある思春期について考えていたので、今回の学習会に参加できてよかった。
- 他の方も同じような悩みを持っていることが分かり、自分の子どもより大きなお子さんを持つお母さんにも話を聞いてみたいと思った。
- 短い時間ではあったが、元気をいただくことができた。
- 人の話を聞けてよかった。

第３章　まとめ

今年度の調査研究は、昨年度の調査研究から明らかになった、学習機会の提供が少ない思春期に焦点を当てることからスタートした。高等学校や特別支援学校において、親学習プログラムを活用した家庭教育支援を効果的に展開するため、その参考となる活用例などを集めた資料を作成し、積極的な活用を促していくことで、県内の家庭教育に関する学習機会の充実を図ることをねらいとした。

この第３章では、そのねらいのもと進めてきた研究の実践等から得られた成果や課題をまとめるとともに、今後の取組について紹介することで、栃木県の切れ目ない家庭教育支援の充実につながる一助にしたい。

学校で保護者対象の学びを企画する方へ！

～「親学習プログラム」をやってみませんか？～

皆さんの学校では、保護者同士が子育てについて学び合う機会は設けられていますか。
「子どもが高校生にもなって、今さら保護者が学ぶ必要があるのか。」という声もあるかもしれませんが、高校生は、社会に出て独り立ちする準備の時期で、保護者が子育てに関わることができる最終段階の時期でもあります。

親としての学び合いを高校でも

子どもが高校生になると、親はほっとして子育てが終わったような気持ちになることが多いと思います。しかし現実には、終わるどころか、新しい悩みや不安が山積します。高校生になったのだからと、放任してしまう親もあります。親子でほとんど会話ができなくなることもあります。

世の中はどんどん変化して、子どもたちが世の中で活躍する10年後、20年後には通信手段も職業も働き方も大きく変わっていることでしょう。親世代が自分たちが学んだ知識や技術を子ども世代に教え込むという時代ではなくなりました。親もまた新しい親の役割を学んでいかなければならない時代です。親たちはどのように親の在り方を学んでいけばよいのでしょうか。

大切なことは、同じ世代の親同士が、共に学び合うことで最も力になる学習ができるということです。

子どもの将来や生き方などについては、正しい答えが一つだけあるわけではありません。親の在り方も正解が一つではありません。いろいろな親がいろいろな子育てをしています。多様な生き方、多様な考え方があることを知ること、なぜそうしているのかを知ることで、自分も豊かになることができるのです。

親の役割は終わることはありません。学校は、もっと思春期の子を持つ親同士が、学び合える場となって欲しいと思います。保護者や教師、地域の人材が一緒に、自分の学校に合った学びの場を工夫されることを期待します。

宇都宮共和大学
特任教授
牧野カツコ

◎学校でこんなことありませんか？

子どもが高校に入学してから、相談できる相手が近くにいないわ…
同じ学校の保護者同士で話せる機会があれば…

保護者の抱えている不安や悩みを軽くできたら…
学校に集まる機会に何かできれば…

「親学習プログラム」を活用すると効果的な話合いができます！

「親学習プログラム」とは…

- 保護者同士が身近なエピソードやワークを通して話し合いながら子育てに必要な知識やスキルを主体的に学ぶ、参加型の学習プログラムで、栃木県教育委員会が作成したものです。
- 保護者同士の交流が深まったり、保護者と学校の距離が縮まったりするなどの効果があります。
- プログラムは、社会教育主事や研修を受けたボランティアがファシリテーター※を務めます。
- 30～120分の展開例がありますが、参加者の状況や人数、クラス単位や学年単位、使用する場面や時間、場所等に応じて展開の仕方を自由に工夫できます。

※ファシリテーター：プログラムを進行していく人（促進者）のことで、開放的な雰囲気づくりを心がけ、参加者の主体性を尊重し、特定の方向に意見を導かないよう促します。

親学習プログラム

◎標準的なプログラムの流れ
○アイスブレイク
・参加者の緊張や場の雰囲気を和やかにします！
○グループ分け
・話合い等が行いやすい人数（4～6人）にします！
○ワーク
・テーマに沿った話合いや簡単な体験など内容は様々です！
○振り返り
・気付きや意見等を聞きまとめの場とします！

詳細はこちら！⇒ とちぎ親プロ 検索

栃木県総合教育センター生涯学習部

３－１　研究のまとめ

昨年度、総合教育センター生涯学習部が行った「栃木県における家庭教育支援の状況調査」から、高校生の保護者を対象にした学びの機会が少ないことが明らかになっていた。今回の県立学校を対象にしたアンケート調査からも、保護者を対象にした学びの機会を設けている割合は 34%と十分実施できているとは言えない結果が判明した。さらに、「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用がある学校の割合が９％であるという状況についても把握することができた。

今年度は、切れ目ない家庭教育支援の充実を図るため、特に思春期の子を持つ保護者に焦点をあて、「親学習プログラム」の活用促進に向けた研究を進めてきた。子どもを心豊かに安心して育てる教育環境を充実するには、乳幼児期から自立するまでの切れ目ない家庭教育支援が重要であるが、現状ではまだ工夫の余地がある。

また、アンケート調査では、「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」に対する意見等を把握することができた。活用がある学校からの「具体的なアドバイスがある資料等の配付で参加者の満足度や意欲が高まるのではないか」、「特別支援学校の実態を把握している外部人材がいたら情報提供してほしい」といった回答や、活用がない学校からの「プログラムについて理解不足だった」、「本校の実態に合わせて活用したい」、「短時間で実施できるプログラムを知りたい」、「子育てを終えた方の体験談やアドバイスなどあれば保護者は関心を示すかもしれない」といった回答は、新たなプログラム展開案の作成に向けてのヒントにつながった。

本調査研究を進めるにあたり、家庭教育について長年研究を重ねてこられている牧野先生や、ファシリテーターとしての活動経験が豊富な伊吹氏、生井氏、生涯学習課や教育事務所において家庭教育を担当している職員に研究協力員を委嘱した。研究協力委員を構成員とする研究会議においては、県立学校対象のアンケート調査結果等を基に意見交換をしながら、時間配分やグループ分けの仕方、言葉の掛け方、準備する資料の内容など細部にも気を配り、ＰＴＡ総会や学年保護者会で実施できるプログラムと、講話と組み合わせてできるプログラムの展開案を作成することができた。

研究協力校について、年度途中に依頼することになり実施したのは２校となったが、実施校ではいずれもよい成果を得た。栃木工業高等学校の実践では、活動が進むにつれて参加者の雰囲気が和やかになったことや、自分の子どもが書いてくれた名札シールを嬉しそうに見つめている姿がとても印象的だった。30 分という短時間プログラムではあったが、参加者の満足度が高く、ねらいに沿った気付きや学びを得られたとするアンケートの結果から、プログラムが短時間になったとしても、保護者同士が話し合いを通して、悩みを共有したり、意見を交換したりして、子育てについて考える機会の提供につながった。

栃木特別支援学校の実践では、親学習プログラム指導者研修の修了者でもあり、自身が特別支援学校の保護者でもあったという方がファシリテーターを務めた。25 分というかなりの短時間プログラムのため、話す時間の確保と安心して話せる雰囲気づくりに気を配って準備等を進めていた。ファシリテーターとしてベテランであり、実際にプログラムを展開する際には、時間配分を熟慮した進行表や仕掛けのある資料を用意するなどして臨んでいたことにより、保護者同士がとても安心した気持ちで意見交換をしたり、満足した表情で帰ったりする姿を見ることができた。こういった参加者の様子や実施後のアンケート結果から、講話内容を振り返るというプログラムであっても、参加者の満足度が上がり、話の内容をより理解して気付きや学びを得られる機会の提供につながった。

研究協力校での実践を通して、ＰＴＡ総会や学年保護者会で実施できるプログラムと、講話と組み合わ

せてできるプログラムの展開案は、保護者の満足が得られ、ねらいに沿った効果も十分見込めるものとして、広く紹介することができる手応えをつかめた。そして、この実践したプログラムなどについてまとめた資料があれば、活用がない学校から出されていた「行事に新たに組み入れる時間的、人的余裕がない」、「短時間プログラムがあるなら知りたい」に十分対応でき、「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」の活用促進にもつながると思われる。

そこで、調査研究の成果として、学校で保護者を対象にした学びの機会を企画する方向けにリーフレットを作成することとした。「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」を紹介するとともに、活用を促進することをねらいとして、調査研究の取組から得られた成果や、実践事例などをまとめた。「親学習プログラム」を知らない人が目にしても理解できることや、実施したいと思ったらすぐ依頼できることなどを考慮して構成や内容を工夫した。また、リーフレットに「親学習プログラム」を継続実施している学校の情報を入れることで、継続可能な要因などを紹介することとした。

３－２　今後に向けて

まずは思春期の家庭教育支援事業に関する調査研究の成果として作成した、「学校で保護者を対象にした学びの機会を企画する方へ！」のリーフレットを有効活用していきたいと考えている。学校等へ配付するだけに留まらず、当センターで実施する研修や会議で配付するとともに説明を入れる時間を加えたり、実際に「親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラム」を体験してもらったりするなど、教員に直接働きかけることで、認知度を上げ、理解を深め、活用意欲を高めることにつなげたいと考えている。特に、学校行事や教育課程の業務に携わる、20 年目教職員や教務主任、教頭研修での実施を計画している。

また、ＰＴＡでリーダー的立場にある方が一堂に介する高等学校ＰＴＡ連合会総会といった機会を、直接働きかけられる貴重な場と捉え、当日配付資料の一つにリーフレットを入れたり、調査研究での実践事例を中心に紹介する時間を設けたりしたいと考えている。

さらに、当センターで実施する研修や会議等で説明をする際は、研究会議において研究協力委員からいただいた貴重な意見や考えをしっかり押さえ、伝えていきたいと思う。特に、「進学や就職で親元を離れる前に、保護者が子どもに大事なことを語れる最終段階が高校時代であるからこそ、保護者が子どもとの関わり方を学べる親学習プログラムを体験することは重要である。」、「親学習の基本は、他人の話を聞いて、それぞれの考えの違いを知ることであるから、話したり、情報交換したりすることで生き方を学べる親学習プログラムは、絶対に必要なこと。」などは、「親学習プログラム」の必要性を訴えるのに、大変重要かつ有効な言葉である。

今後は、県立学校の教員やＰＴＡでリーダー的立場にある方への直接的な働きかけに重点を置きながら、活用促進に向けて着実に取り組んでいきたい。そして、「子どもが高校生にもなって、親学習プログラムって必要なの？」といった質問が出てきたとしても、この調査研究で得られた成果等を示すことでしっかり対応し、さらには「親学習プログラム」そのものの関心を高め、家庭教育支援の充実に努めて参りたい。

【資料1】

親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムに関する取組状況調査

〇本調査は、県立高等学校、特別支援学校における親学習プログラムの活用状況を把握し、今後の親学習プログラムを活用した家庭教育支援を効果的に展開するために実施するものです。※「親学習プログラム」についての詳細は、最下部をご覧ください。

回答する際は、今年度も含めて過去3年間の状況についてお考えください。また、回答内容の詳細について、後日改めてお聞かせいただくこともあります。なお、調査結果について資料等にまとめて公表することがあることを御承知おきください。

調査項目

※記述以外の回答については、あてはまる欄に「1」をご入力ください。

■ **問1.貴校において、保護者を対象に子どもとの関わり方について学ぶ機会が設けられていますか。**

- ☐ 設けられている →具体的に教えてくださ
- ☐ 設けられていない

■ **問2.貴校において、保護者を対象にした学びの機会に親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムを活用したことがありますか。**

- ☐ 活用したことがある ⟶ **問3～問8へ**
- ☐ 活用したことがない ⟶ **問9へ**

■ **問3.活用の仕方（いつ、だれが進行役となり、どんな場面で、どのようなテーマ）について詳しく教えてください。**
※複数回実施している場合はそれぞれお書きください。

	a）いつ	b）進行役	c）どんな場面	d）どのようなテーマ
①				
その他は具体的に記入→				
②				
その他は具体的に記入→				
③				
その他は具体的に記入→				

■ **問4.プログラムを活用している中で効果を感じていることについて、<u>あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。</u>**

- ☐ 保護者同士のコミュニケーションが深まる
- ☐ 子育てに関する不安や悩みの軽減につながる
- ☐ 教員の保護者に対する理解が深まる
- ☐ 参加者の満足度が高い
- ☐ その他（具体的に）→

■ **問5.プログラムをさらに充実させるために必要なことについて、<u>あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。</u>**

- ☐ 現代的課題に対応したプログラム
- ☐ 保護者に提供できるプログラムに合った最新の資料
- ☐ 短時間に行えるプログラム
- ☐ その他（具体的に）→

■ **問6.貴校において、外部人材を活用して親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムを実施したことがありますか。**

- ☐ 実施したことがある ⟶ **問7へ**
- ☐ 実施したことがない ⟶ **問8へ**

■ **問7.外部人材を活用している中で感じていることや考えについて、<u>あてはまるものをすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。</u>**

- ☐ 保護者や学校、教員によい効果が見られる
- ☐ 活動の雰囲気がよくなる
- ☐ 教員の負担軽減につながる
- ☐ 外部人材との連絡調整に手間がかかる
- ☐ その他（具体的に）→

■ 問8.外部人材を活用していない理由について、あてはまるものすべてを選んでください。

- ☐ 外部人材を活用しなくても実施できる→進行役及び理由は？
- ☐ 外部人材を活用して実施できることを知らない
- ☐ 外部人材とどう連携すればよいか分からない
- ☐ その他（具体的に）→

■ 問9.活用したことがない理由について、あてはまるものすべてを選び、具体的な理由があれば空欄にお書きください。

- ☐ プログラムを知らない
- ☐ プログラムの活用法が分からない
- ☐ プログラムの活用の場が分からない
- ☐ プログラムを活用する必要がない
- ☐ プログラムが活用しにくい
- ☐ その他（具体的に）→

昨年度の調査研究において、市町や公民館で思春期の子どもを持つ保護者を対象にした学習機会の提供が少ないことが明らかになりました。そこで、思春期の子どもを持つ保護者を対象にした学習の機会を提供する上で必要なことは何かを探るための参考にしたいので、次の質問にお答えください。

■ 問10.貴校において、保護者が子育てについて学ぶ機会を提供する（提供することになった）際、重視している（重視したい）点をすべて選び、具体的な内容等あれば空欄にお書きください。

- ☐ 保護者のニーズに合った学習内容の提供
- ☐ 教員が保護者に学んで欲しいと思う学習内容の提供
- ☐ 保護者が主体的に学べる参加型の学習機会の提供
- ☐ 講演形式の学習機会の提供
- ☐ 保護者の参加率を上げる方法（時期、場所等）
- ☐ その他（具体的に）→

■ 問11.その他、親学習プログラム・思春期版家庭教育支援プログラムについて、何か御意見等ありましたらお聞かせください。

■ 問12.最後に、あなたご自身のことについてお教えください。

（1） 所属校名

（2） 回答者名

（3） 職名 ☐教頭 ☐主幹教諭 ☐教務主任 ☐教諭（担任） ☐教諭（担任外） ☐その他（講師等）

（4） 主な校務分掌 ☐PTA ☐地域連携 ☐その他

御協力ありがとうございました。回答が終わりましたら、上書き保存したデータをEメールに添付して御報告ください。

○親学習プログラムとは？

子どもの理解や、子どもへの接し方、親子のコミュニケーション等、子育てに必要な知識やスキルについて、保護者同士が身近なエピソードやワークを通して話し合いながら主体的に学ぶ、参加型の学習プログラムです。

ワークには決まった答えがあるわけではありません。無理に答えを出すこともありません。参加者同士が話し合いを進めていく中で、自分自身の問題に気づいたり、親としてのあり方や役割について考えたり整理したりするきっかけとすることがねらいです。

また、子育て中の人だけでなく、子育てが終わった人や、将来、親となる中学生や高校生も学習できるような内容になっています。

http://www.pref.tochigi.lg.jp/m06/education/shougai/suishinjigyou/oya-pro.html

○思春期版家庭教育支援プログラムとは？

思春期の子どもを持つ保護者を対象とした家庭教育支援の充実を図るため、保護者にとって身近な中学校や高等学校、特別支援学校をステージに、PTA研修や保護者会などで活用できるプログラムとして開発されたものです。このプログラムには、進路や友人関係等に悩む思春期の子どもとの向き合い方や、多くの保護者が集まる機会に効果的に学習機会・交流機会を提供する方法等について紹介しています。http://www.pref.tochigi.lg.jp/m06/education/shougai/suishinjigyou/sishunki.html

【資料２－１】☆思春期版家庭教育支援プログラム

テーマ：「思春期の子どもとの向き合い方学習会　～我が子は思春期真っ只中～」（30 分）

ねらい	・思春期の子どもとの向き合い方について保護者同士で話合い、保護者として子どもにどう関わるかについて考えるきっかけとする。
実施のポイント	・楽しい雰囲気の中で、保護者同士がコミュニケーションを図り、意見や情報交換等ができるようにする。 ・普段の子どもとの関わり方をふりかえり、悩みを共有することで不安を解消し、今後の子どもへの接し方を考えられるようにする。
事前の準備	◇３つの約束カード　◇名札シート（タックシール）　◇アンケート回収箱 ◇配付資料（レジュメ、参考資料、アンケート用紙）

	展　　開	◆展開のポイント	備　考
導入 ８分	◎テーマと注意事項の確認 １　自己紹介をする。 ⑴　グループ分け（座席ごと３～４人組） ⑵　自己紹介その１（子どもの名前と住まいまたは出身中学） ⑶　自己紹介その２（自分が高校時代に夢中になっていたこと）	◆安心して話合いができる雰囲気がつくれるようにする。 ◆座席の近く同士でグループ分けをして時間をかけないようにする。 ◆現在、高校生である子どもの気持ちを想像する準備とする。 ◆グループ内で話合いがしやすくなる雰囲気づくりにつなげる。 ◆自己紹介その２は、１人１分程度で話してもらう。	□名札シート（子どもの名前）
W １ 12 分	２　レジュメをもとに、グループで子どもの気になっていることや心配なことについて自由に話しあう。 ・最近の子どもの様子 ・自分と子どもとの関係 ・家族と子どもとの関係　等	◆子どものことについて、最近気になっていること、悩みや不安等を自由に話してもらう。 ◆自分と子どもの関係をふりかえる機会とする。	□レジュメ
資料 ３ 分	４　資料をもとに思春期の子どもの特徴や傾向を確認する。 ・資料「思春期とはこんな時期です」を活用する。	◆実例の話を取り入れるなどして、高校生の悩みや不安について理解を深めさせる。	□資料
ふりかえり ７ 分	５　ふりかえり ⑴　今後、思春期の子どもと関わる上で心がけたいことや保護者の心構えについて話し合う。 ・個人で考えた後、グループ内で話をする ⑵　全体でわかちあう。	◆保護者の関わり方を中心に、家族と子ども、家族間、夫婦間で心がけたいことについても考えさせる。 ◆グループでどんなことが話し合われたか発表してもらうことを、事前に伝えておく。 ◆高校生の悩みや不安を受け止めていく上で、保護者同士や保護者と教員との良好な関係づくりも大切であることにふれる。	
事後	○アンケート用紙に記入する。	◆クラス懇談会へ移動するまでの時間を利用して記入してもらう。 ◆担当がアンケート回収箱を用意して、回収を行う。	□アンケート用紙、アンケート回収箱

【資料２－２】

「思春期の子どもとの向き合い方学習会　～我が子は思春期真っ只中～」

高校に入学してから半年が過ぎ、子どもたちには、どんな世界が広がるのだろう？
高度な学習内容、遠くから通ってくる友だち、
これまでに知らなかった刺激的な世界…。
将来への夢や希望とちょっぴり不安に満ちた子どもたちに、大人はどのように
関わっていけば良いか、一緒に考えてみませんか？

1　まずはウォーミングアップ

○ 自己紹介

2　ふりかえってみよう　私が思春期だった頃

○ 高校時代、夢中になっていたこと（アイドル？　部活動？　勉強？・・・）

3　気になっていることはありませんか？

○ こんな場面はありませんか？

4　思春期はこんな時期です・・・

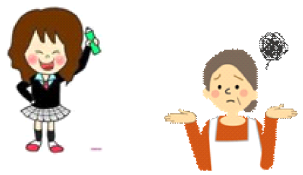
5　ふりかえり

○ これから心がけたいことや保護者の心構えを考えてみましょう！

私は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿！

【資料２－３】

思春期とは、こんな時期です！



思春期の子どもの特徴にはどのようなものがあるの？

○自分の急激な変化に戸惑っています

子どもたちは**表面的には明るく、悩みがないようにふるまっている**かもしれませんが、内心は**急激な体と心の変化に戸惑っています。**

○親とあまり話をしなくなる傾向が見られます

この時期の子どもたちは、**親や先生から干渉されることを嫌う**ようになります。子ども時代と変わって親に対して客観的な目を持つようになります。話しかけても無視したりする一方、放っておかれると見捨てられたと思い「すねる」など、矛盾した行動が見られます。親はこれに**翻弄されることなくサポートしていくことが必要**です。

○友達との関係に敏感になる傾向が見られます

自分の体と心の葛藤を親などに素直に相談しにくいことから、同じ状況に置かれている**友達との関係を大切にしていきます**。しかし、全員が本当に気持ちを許せる友達かといえば、そうではありません。中には仲間からはじかれないように必死に付き合っている子どももいます。

○異性への関心が強くなる傾向にあります

男女とも、お互いに**異性の存在が心の中に占める割合が大きくなり**、このことが思春期の心の動揺を一層大きなものにしています。また、少しの刺激で過剰に反応したり、落ち込んで悩んだりして**情緒が安定しません**。特に**大人の何気ない一言で傷ついたり、反対に励みになったり**します。

○興味が変わり、新たな価値観を得ようとしはじめます

今まで興味がなかったことに関心が向きはじめたり、今までやらなかったことを始めたりすることがあります。運動、詩や日記など文学、音楽や絵など芸術活動をとおして、**新たな自分を発見**していくことが見られます。中にはミュージシャンになりたいと突然言い出して親が不安になることもありますが、この時期のお子さんとしては心配いりません。

○“人間の本質”に関心が向くようになります

「なぜ勉強をしなければならないのか」「自分はどうやって生きて行こうか」「命とは何か」など自分が生きていく上で大切なことを考えたり悩んだりしていくようになります。**反抗しながら親の生き方を取り入れていく**ことが多いので、親も自分の考えを見直さねばならないこともあるかもしれません。

☆学校で、子育てについて話し合おう☆

今ほど子どもを一人の自立した大人に育て上げることが難しい時代はありません。日本は戦後世界的な高度経済成長を遂げましたが、その陰で家族や社会の変化に伴い、現在１２万人の不登校、１００万人以上の成人したひきこもり状態があるといわれ、また、連日虐待に関するニュースが報道されています。

特に思春期以降は、子どもが自立に向かう時期で、この難しい社会に出て独り立ちしていく準備の時であり、大きな不安や葛藤に揺さぶられつつ前進していく時です。

我々は、この大事な時期に、保護者、地域の方々が一緒に教育に関わっていくことが大切だと考え、今までのような講演会主体の学習会ではなく、保護者や地域の方々がそれぞれの体験を話し合う中でお互いに学び合えるプログラムを作りました。試行した学校では、保護者の体験からくる意見や悩みが次々と出され、学習会は非常に活気にあふれたものとなりました。

ぜひ、このプログラムを参考に参加型の学習会を開いていただき、保護者や地域の方々にも開かれた＜子育ての拠点＞として、学校をより発展させていただきたいと願っております。

国際医療福祉大学クリニック臨床心理士　小林　順子

【資料２－４】
☆思春期の子どもとの向き合い方学習会アンケート

〇みなさまの率直な感想をお聞かせください。

１　今回のプログラム「思春期の子どもとの向き合い方学習会～我が子は思春期真っ只中～」はいかがでしたか。
※実施前後の気持ちについて、あてはまるもの（近いもの）に〇を付けてください。

（１）実施前の気持ち

とても楽しみ	少し楽しみ	少し不満	とても不満

（２）実施後の気持ち

とても満足	少し満足	少し不満	とても不満

２　今回のプログラムに参加して、「気付き」や「学び」などありましたか。
※あてはまるもに〇を付けてください。（複数回答可）

ア　思春期の子どもの特性を理解することができた。

イ　自分の子育てを振り返る機会となった。

ウ　他の人も同じような悩みや不安を持っていることが分かり安心した。

エ　新たなつながり（知り合い）をつくることができた。

オ　これから生かしたい、実践したいと思えることがあった。

カ　今後の PTA 活動や学校行事に参加しやすくなった。

キ　その他（具体的にお聞かせください）

３　その他、今回のプログラムについて、御意見・御感想を自由にお書きください。

御協力ありがとうございました

【資料３－１】☆思春期版家庭教育支援プログラム

テーマ：「思春期の子どもとの関わり方　～レッツ・親トーーーーク～」（25 分）

ねらい	・思春期の子どもとの向き合い方について保護者同士で話合い、保護者として子どもにどうか関わるかについて考えるきっかけとする。
実施のポイント	・楽しい雰囲気の中で、保護者同士がコミュニケーションを図り、意見や情報交換等ができるようにする。 ・講話の中で心に残ったことなどを基に振り返り、今後の子どもへの接し方を考えるきっかけづくりになるようにする。
事前の準備	◇３つの約束カード　◇名札シート（タックシール） ◇配付資料（レジュメ、アンケート用紙）

	展　　開	◆展開のポイント	備　考
導入 10分	◎テーマと注意事項の確認 １　自己紹介をする。 ⑴　自己紹介その１（子どもの名前と住まい等） ⑵　自己紹介その２（最近食べておいしかった物）	◆安心して話合いができる雰囲気がつくれるようにする。 ◆自己紹介その１によってグループ内で話合いがしやすくなる雰囲気づくりにつなげる。 ◆自己紹介その２は、１人１分程度で話してもらう。	□名札シート（受付後に子どもの名前と学部を記入してもらう） □レジュメ
W 1 12分	２　講話を聞いて感じたことを自由に話し合う。 ⑴　講話内容のポイントを再確認する。 ⑵　心に残ったことや響いたことを話す。	◆講話内容のポイントである「思春期の子どもを育てるために大切な１０のこと」を再確認させ、次の話す活動がスムーズにいくようにする。 ◆自分と子どもの関係をふりかえる機会とする。	
ふりかえり ３分	３　ふりかえり ・プログラム全体をとおして気付いたことなどを自分の中でまとめる。	◆資料を参考に、実例の話を取り入れるなどして説明し、思春期の子どもに関する理解を深めさせる。	
事後	○アンケート用紙に記入する。	◆記入したアンケート用紙は、後日、学校に提出していただく。	□アンケート用紙

【資料３－２】
☆親学習プログラムによる振り返り

「思春期の子どもとの関わり方　～レッツ・親トーーーーク～」

講話「思春期の子どもとの関わり方」を聞いて、
感じたこと（心に残ったことや心に響いたこと）を
自由に話してみましょう！

1　まずはウォーミングアップ

○ 自己紹介

2　講話を聞いて感じたことを話してみましょう

○ 心に残ったことや心に響いたことは？

♡想い・・・

【資料３－３】

☆親学習プログラムによる振り返りアンケート

〇講演の後に実施した、親学習プログラムによる振り返りに関してみなさまの率直な感想をお聞かせください。

１　今回の**プログラム「思春期の子どもとの関わり方～レッツ・親トーーーーク～」**はいかがでしたか。

※実施前後の気持ちについて、あてはまるもの（近いもの）に〇を付けてください。

（１）実施前の気持ち

とても楽しみ　　少し楽しみ　　少し不満　　とても不満

（２）実施後の気持ち

とても満足　　少し満足　　少し不満　　とても不満

２　今回のプログラムに参加して、「気付き」や「学び」などありましたか。

※あてはまるもに〇を付けてください。（複数回答可）

ア　自分の子育てを振り返る機会となった。

イ　他の人も同じような悩みや不安を持っていることが分かり安心した。

ウ　新たなつながり（知り合い）をつくることができた。

エ　これから生かしたい、実践したいと思えることがあった。

オ　今後の PTA 活動や学校行事に参加しやすくなった。

カ　その他（具体的にお聞かせください）

３　講演後に、親学習プログラムによる振り返りを実施することについてどう思いますか？

とてもよい　　よい　　あまりよくない　　よくない

４　その他、今回のプログラムについて、御意見・御感想を自由にお書きください。

御協力ありがとうございました

【資料４】

学校で保護者対象の学びを企画する方へ！

～「親学習プログラム」をやってみませんか？～

皆さんの学校では、保護者同士が子育てについて学び合う機会は設けられていますか。

「子どもが高校生にもなって、今さら保護者が学ぶ必要があるのか。」という声もあるかもしれませんが、高校生は、社会に出て独り立ちする準備の時期で、保護者が子育てに関わることができる最終段階の時期でもあります。

親としての学び合いを高校でも

宇都宮共和大学
特任教授
牧野カツコ

子どもが高校生になると、親はほっとして子育てが終わったような気持ちになることが多いと思います。しかし現実には、終わるどころか、新しい悩みや不安が山積します。高校生になったのだからと、放任してしまう親もあります。親子でほとんど会話ができなくなることもあります。

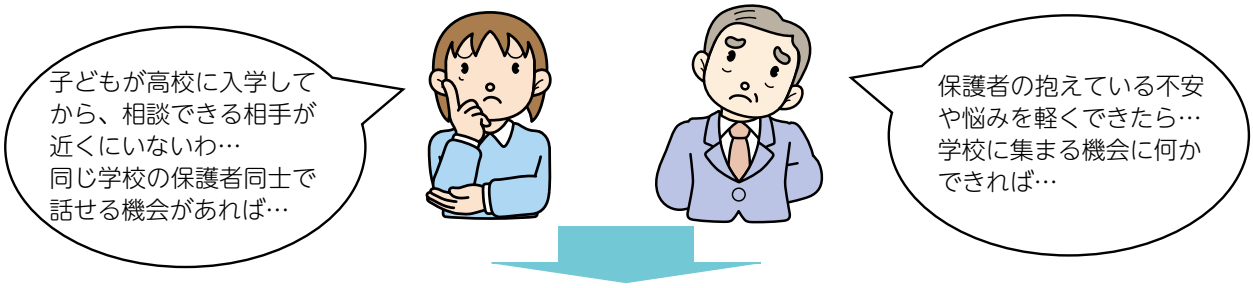
世の中はどんどん変化して、子どもたちが世の中で活躍する 10 年後、20 年後には通信手段も職業も働き方も大きく変わっていることでしょう。親世代が自分たちが学んだ知識や技術を子ども世代に教え込むという時代ではなくなりました。親もまた新しい親の役割を学んでいかなければならない時代です。親たちはどのように親の在り方を学んでいけばよいのでしょうか。

大切なことは、同じ世代の親同士が、共に学び合うことで最も力になる学習ができるということです。

子どもの将来や生き方などについては、正しい答えが一つだけあるわけではありません。親の在り方も正解が一つではありません。いろいろな親がいろいろな子育てをしています。多様な生き方、多様な考え方があることを知ること、なぜそうしているのかを知ることで、自分も豊かになることができるのです。

親の役割は終わることはありません。学校は、もっと思春期の子を持つ親同士が、学び合える場となって欲しいと思います。保護者や教師、地域の人材が一緒に、自分の学校に合った学びの場を工夫されることを期待します。

◎学校でこんなことありませんか？



「親学習プログラム」を活用すると効果的な話合いができます！

「親学習プログラム」とは…

- 保護者同士が身近なエピソードやワークを通して話し合いながら子育てに必要な知識やスキルを主体的に学ぶ、参加型の学習プログラムで、栃木県教育委員会が作成したものです。
- 保護者同士の交流が深まったり、保護者と学校の距離が縮まったりするなどの効果があります。
- プログラムは、社会教育主事や研修を受けたボランティアがファシリテーター※を務めます。
- 30 ～ 120 分の展開例がありますが、参加者の状況や人数、クラス単位や学年単位、使用する場面や時間、場所等に応じて展開の仕方を自由に工夫できます。

※ファシリテーター：プログラムを進行していく人（促進者）のことで、開放的な雰囲気づくりを心がけ、参加者の主体性を尊重し、特定の方向に意見を導かないよう促します。

☆標準的なプログラムの流れ

○アイスブレイク
・参加者の緊張や場の雰囲気を和やかにします！

○グループ分け
・話合い等が行いやすい人数（4～6人）にします！

○ワーク
・テーマに沿った話合いや簡単な体験など内容は様々です！

○振り返り
・気付きや意見等を聞きまとめの場とします！

詳細はこちら！⇒ とちぎ親プロ 検索

ＰＴＡ総会や学年保護者会で実施できます！

～短時間でも有効な学びの場に！～

～栃木工業高校での実践～

【実施プログラム】

☆テーマ「思春期の子どもとの向き合い方学習会～我が子は思春期真っ只中～」
☆参加者：第１学年保護者
☆会　場：体育館
☆展　開：設定時間 30 分
　〇自己紹介・グループ分け
　〇ワーク
　・子どものことについて最近気になっていることなどを自由に話す
　・資料をもとに思春期の子どもの特徴や傾向を確認する
　〇振り返り

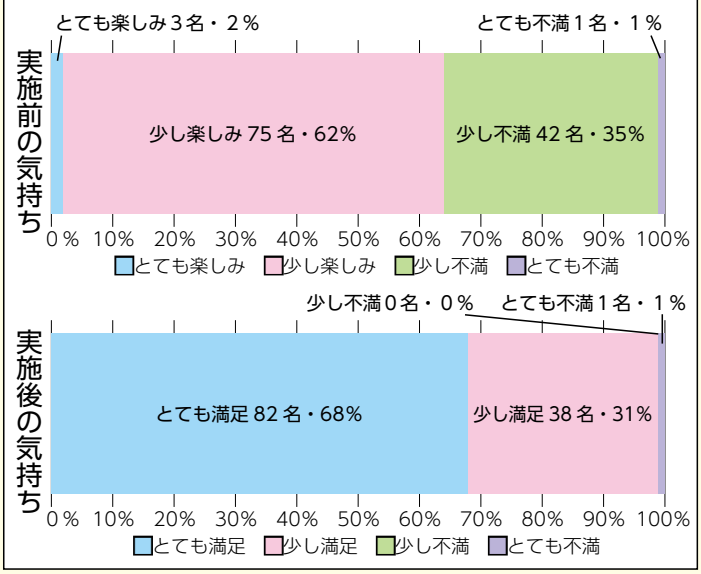
栃木工業高校では、これまで講話型のＰＴＡ学年部会が通例で、親同士が交流を図りながら子育てについて振り返るといった新たな内容を取り入れたいと考えていました。そこで、保護者同士で話し合い、親として子どもにどう関わるかについて考えるきっかけになることを期待して、参加型の学習会を新たに実施しました。

保護者が大満足！

当日は、約 120 名の保護者の方が参加しました。実施前とても楽しみにしていた方は２％でしたが、実施後とても満足した方は 68％になりました。少し満足と合わせると 99％になり、ほとんどの方が満足だったことがアンケートの結果からも分かります。

〈新たなつながりをつくれた話合い〉

●思春期の子どもとの向き合い方学習会アンケート集計結果より



【保護者の声】

・他の保護者の方といろいろ話せたり、同じ悩みがあることを知ったりして、安心することができた。
・このような機会がないと話をするチャンスもないので、今回はとてもありがたい学習会だった。

【参観した教員の声】

・保護者が生き生きと話している姿を見て、参加者同士の交流が深まるといった「親学習プログラム」のすばらしさを実感した。
・年度当初に実施すれば、さらに効果が期待できると思う。

実施はとても簡単！

☆実施の１か月くらい前までに相談をすると、内容の確認からファシリテーターの派遣、当日の運営に至るまで簡単に進みます！
☆事前打合せに時間はかかりません！
☆配付資料や当日の進行などファシリテーターに全てお任せ！
☆費用はかからず、準備もなく実施できます！

【実施までの流れ】

学校・PTA
「PTA総会後の全体会で子どもとの関わり方の内容でプログラムを実施してみよう。」まずは相談

総合教育センター
「では、期日や内容等について確認をさせてください。」後日、ファシリテーターが学校に連絡し詳細を確認

実施当日
ファシリテーターが資料の準備や運営など全てを担当

講話と「親学習プログラム」を組み合わせて実施できます！

～講話内容の理解が深まる！～

～栃木特別支援学校での実践～

【実施プログラム】

☆講話「思春期の子どもとの関わり方」（60 分）の後に実施
☆テーマ「思春期の子どもとの関わり方～レッツ・親トーーーーク～」
☆参加者：保護者（小～高）
☆会　場：音楽室
☆展　開：設定時間 25 分
　〇自己紹介・グループ分け
　〇ワーク
　・講話の中で心に残ったことや響いたことなどを自由に話す
　〇振り返り

栃木特別支援学校では、これまで講話中心のＰＴＡ研修会を行い話を聞くだけで終わっていましたが、参加者が講話内容をより深く理解できるような工夫ができないか考えていました。そこで、講話後に参加者同士で気付いたことや考えたことなどを話し合い、今後の子育てのヒントを得るきっかけになることを期待して、参加型による振り返りを組み合わせて実施しました。

振り返りに有効！

実施後のアンケート結果から、短時間の話合いでも安心した雰囲気の中で、子育てについて振り返り、今後実践したいことなどを考える機会になっていたことが分かりました。

〈熱心に語り合う様子〉

☆講話を生かしたふりかえりに参加しての「気付き」や「学び」は？（実施後アンケート結果）
【複数回答】

・自分の子育てを振り返る機会となった。（85.7%）
・他の人も同じような悩みや不安を持っていることが分かり安心した。（71.4%）
・これから生かしたい、実践したいと思えることがあった。（52.4%）
・新たなつながり（知り合い）をつくることができた。（23.8%）
・今後のＰＴＡ活動や学校行事に参加しやすくなった。（14.3%）

【保護者の声】
・何をするのかよく分からず参加したが、とても楽しい時間を過ごせた。
・他の方との話合いなどにより、気付かされることが多く、とても勉強になった。

【ファシリテーターの声】
・「親学習プログラム」指導者研修修了者の私が、特別支援学校の元保護者でもあることを生かしながら務めたことは、自分にとって大変貴重な経験となった。今後の活躍の場を広げる一歩につながったと感じた。

【参観した教員の声】
・ファシリテーターの雰囲気づくりや進行の巧みさに圧倒されたと同時に、保護者の生き生きした姿が見られ実施してよかった。

☆「親学習プログラム」には、思春期の子を持つ保護者対象のテーマがまだまだあります！
（ここではテーマとねらいを一部紹介します）

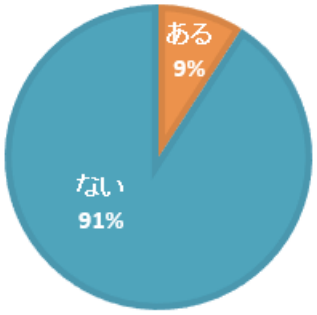
テーマ	ねらい
子どもに条件をつけて接していませんか？	思春期を迎えた我が子に、かけがえのない大切な存在であることをどのように伝えたらよいかについて考える。
我が子の進路とどう向き合っていますか？	卒業後の進路選択を考える時期を迎えた我が子との望ましい接し方について考える。
あなたならどうしますか？～家庭における性教育～	子どもたちの性や男女の付き合い方について、家庭でどう関わるかについて考える。

☆講話のテーマを自由に設定し、その内容を振り返ることが可能です！

例）成年年齢引き下げに伴い、栃木県県民生活部くらし安全安心課（栃木県消費生活センター）が実施している消費者トラブル未然防止の出前講座（無料）に、振り返りを組み合わせてはいかがでしょう！
テーマ：最近の悪徳商法の手口と対応方法について（所要時間：60 分～ 90 分）

例）当センターのスマホやネット利用に関する講話と組み合わせることもできます！

親学習プログラムの活用



[県立学校対象のアンケート調査より]

交流しながら主体的に話せる場を充実させよう！

参加者が主体的に話し合うのに有効で、準備もなく手軽に実施できる親学習プログラムですが、県立学校（高等学校・特別支援学校・附属中学校）88校を対象に実施したアンケート調査では、活用している学校は1割に満たない結果でした。活用されない大きな理由は、親学習プログラム自体を知らないからということも判明しました。保護者会で参加者が交流しながら主体的に話せる場を設けて、効果を上げている学校もあります。そのような場を企画したいとお考えの際は、親学習プログラムをぜひ一度お試しください。

鹿沼東高校を紹介します！

平成30年度第1学年保護者学習会より

☆「思春期版家庭教育支援プログラム促進モデル事業」のモデル校として平成25年度に「親学習プログラム」の実施をスタートして以来、継続しています。なぜ続いているのか秘訣などをきいてみました！

Q どのように実施していますか？

A 毎年10月頃、「思春期の子どもとの関わり方」をテーマに第1学年保護者学習会で実施しています。毎回保護者の満足度が高く、教員にとっても保護者理解につながる貴重な時間となっています。

担任とファシリテーターが簡単に打合せをしてから開始しました

Q 実施することでどんな効果がありますか？

A 保護者同士をつなぐネットワークづくりになり、生徒と親を孤立させないために大いに役立っています。また、保護者向けの学びの場として提供できるため、家庭の教育力向上が図れます。

各クラスにファシリテーターが入り、ファシリテーターの見事な進行により終始明るい雰囲気でした

Q 継続できている要因は何ですか？

A 準備いらずで手軽に実施できる上に、生き生きと参加する保護者の姿を実際に目の当たりにした教員の保護者理解につながっていることが大きな要因になっていると思います。そして、次年度の行事にしっかりと組み入れているのも大切なところです。

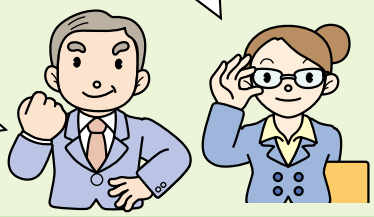
Q 今後については？

A 第2学年のＰＴＡ総会後にも「親学習プログラム」を取り入れる計画を立てています。

☆保護者や教員の声…

保護者とコミュニケーションが取りやすくなり、子どもに関する情報共有が密にできるようになりました

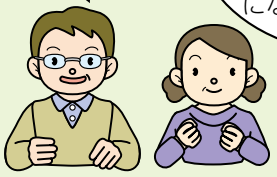
保護者と学校の距離が縮まるきっかけになり、ＰＴＡ行事の参加率が上がりました



子育てについて新たな気付きが得られるとともに、高校生の時期は子どもに向き合う最後のチャンスだと気付くことができました

あの話合いで多様な考えに気付き、悩みや不安が小さくなり子育てが楽しくなりました

同じグループになった保護者の方とは、話合いをきっかけに新たな交流が始まり、卒業した今でもよき相談相手になっています



平成30（2018）年度思春期の家庭教育支援に関する調査研究
【研究協力委員】
○牧野カツコ　宇都宮共和大学　特任教授
○伊吹　桂子　栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会
○生井　　泉　親学習チーム日光
○栃木県教育委員会事務局 生涯学習課 家庭教育担当
○　〃　各教育事務所 ふれあい学習課 家庭教育担当

まずはこちらに御相談ください！
栃木県総合教育センター生涯学習部
ＴＥＬ　０２８－６６５－７２０６
ＦＡＸ　０２８－６６５－７２１９

※リーフレットは、とちぎレインボーネットからダウンロードできます。

平成31（2019）年3月

「親学習プログラム」の活用促進に向けて

～思春期の家庭教育支援事業に関する調査研究～

平成 31（2019）年３月

編集発行　栃木県総合教育センター

〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町 1070

栃木県総合教育センター生涯学習部

TEL　028-665-7206　FAX　028-665-7219

URL　https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/

本報告書は、とちぎレインボーネットでも御覧いただけます。

https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/reserach